

指定の通知書の一部抜粋

(1) 平成22年2月3日に開催された「第6回がん診療連携拠点病院の指定に関する検討会」における意見を踏まえ、順天堂大学医学部附属順天堂医院及び、昭和大学病院をがん診療連携拠点病院として新規に指定することとしたが、東京都全体として単に人口が多いということだけでなく、がん患者の通院圏域、がん診療連携拠点病院間の機能的役割分担、隣接する医療圏との関係等について整理し、その結果について平成22年10月31日までに書面により厚生労働省あて報告すること。

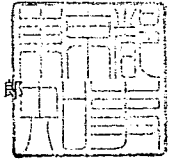
(2) なお、「第7回がん診療連携拠点病院の指定に関する検討会」において、(1)についての考え方について、委員から説明を求められた際には、都道府県から報告がなされるようお願いする。。

日本赤十字社医療センター	現況報告
東京女子医科大学病院	現況報告
日本大学医学部附属板橋病院	現況報告
帝京大学医学部附属病院	現況報告
青梅市立総合病院	現況報告
東京医科大学八王子医療センター	現況報告
杏林大学医学部付属病院	現況報告
武蔵野赤十字病院	現況報告

22福保医政第1478号
平成22年10月29日

厚生労働大臣 殿

東京都知事
石原慎太郎



がん診療連携拠点病院の新規指定及び現況報告について

標記について、「がん診療連携拠点病院の整備に関する指針」（平成20年3月1日付け健発第0301001号厚生労働省健康局長通知(平成22年3月31日一部改正)の別添)に基づき、推薦意見書及び2次医療圏の概要並びに推薦書を添付の上、下記の医療機関を推薦します。

なお、既指定がん診療連携拠点病院については、別添様式に基づき、現況報告書を提出します。

また、平成22年3月3日付健発0303第2号「がん診療連携拠点病院の指定について」により報告を求められた事項については、新規指定に係る推薦意見書の提出をもって報告に代えます。

記

1 都道府県がん診療連携拠点病院

東京都立駒込病院	現況報告
財団法人癌研究会有明病院	現況報告

2 地域がん診療連携拠点病院

独立行政法人国立病院機構東京医療センター	新規指定
慶應義塾大学病院	新規指定
東京医科大学病院	新規指定
公立昭和病院	新規指定
東京都立多摩総合医療センター	新規指定
東京大学医学部附属病院	現況報告
順天堂大学医学部附属順天堂医院	現況報告
日本医科大学付属病院	現況報告
聖路加国際病院	現況報告
N T T 東日本関東病院	現況報告
昭和大学病院	現況報告

都には、日本の人口の1割にあたる約1,300万人が居住しており、二次医療圏の人口規模が100万人を越える医療圏は、最大で区西北部医療圏の約184万人をはじめ、区南部医療圏（約104万人）、区西南部医療圏（約133万人）、区西部医療圏（約117万人）、区東北部医療圏（約127万人）、区東部医療圏（約136万人）、南多摩医療圏（約140万人）と7つあり、平均で約97万人となっている。

これは、標準的な二次医療圏の人口規模（約37万人）の約2.6倍となっており、全国平均を大きく上回っている状況にある。

都には現在、都道府県がん診療連携拠点病院2か所、地域がん診療連携拠点病院14か所、あわせて16病院が指定されているが、全国の拠点病院数（377か所）と比較すると24分の1という状況である。

② 他道府県からのがん患者流入割合が約40%

◆他道府県からの流入状況	
○ 23区内地域拠点病院の流入状況	36.4%
○ 区中央部拠点病院の流入状況	33.3%
○ 区西部拠点病院の流入状況	34.0%
○ 慶應義塾大学病院の流入状況（今回申請）	35.9%
○ 東京医科大学病院の流入状況（今回申請）	24.1%
○ 全国平均の流入状況	5.5%

国立がん研究センターがん対策情報センターが集計した、全国の拠点病院の院内がん登録データ「がん診療連携拠点病院 院内がん登録2008年症例 全国集計 平成21年（2009）年度実施 調査報告（概数・速報版）」によると、23区内拠点病院におけるがん患者の診断時居住都道府県は、東京都63.6%、他道府県36.4%となっており、他道府県拠点病院における自道府県居住者割合が概ね90%を超えているなか、都における他道府県からの患者流入割合の高さは際立っている。

特に、埼玉県、神奈川県、千葉県など首都圏からの流入が極めて多く、東京都内だけではなく、他道府県のがん患者・がん医療を都内の拠点病院が支えているという実態がある。

(2) 地域拠点病院の必要規模

「がん医療水準均てん化の推進に関する検討会」や「がん診療連携拠点病院の整備に関する指針」等に示されるとおり、地域におけるがん医療の均てん化を図るため拠点病院に期待される主な役割として、

1 推薦病院

東京都では、以下のとおり、地域がん診療連携拠点病院（以下、「地域拠点病院」という。）を5施設推薦する。

○ 地域拠点病院

医療機関名	区分	所在圏域
独立行政法人国立病院機構東京医療センター	新規	区西南部
慶應義塾大学病院	新規	区西部
東京医科大学病院	新規	区西部
公立昭和病院	新規	北多摩北部
東京都立多摩総合医療センター	新規	北多摩南部

2 がん診療連携拠点病院の推薦にあたって

(1) がん医療における都の地域特性

- ① 都内の拠点病院は全国の24分の1
～人口に比して拠点病院数が足りない～

◆ 都の人口規模、がん患者数等	
○ 都の人口	約1,300万人 ⇒ 全国の1/10
○ 都民の総がん患者数（推計）	約15万8千人 ⇒ 全国の1/10
○ 二次医療圏の平均人口	約97万人 ⇒ 全国平均の約2.6倍
○ 都内の拠点病院数	16病院 ⇒ 全国（377）の1/24

多くの医療機関が所在しており、交通網の整備の発達と相まって、医療機関の診療圏域が交錯しているという特徴がある。

特に、特定機能病院が6つも存在する区中央部におけるがん患者の流入状況をみると、区中央部医療圏以外のがん患者の流入割合が82.5%と、圏域外からの患者の流入が非常に多いことがわかる。そのうち圏域外患者の住所地別割合をみると、他県(33.3%)からの流入が最も多いが、都内では、区東北部(12.8%)、区西北部(10.2%)、区東部(7.7%)からの流入が多く、二次医療圏を越えた患者の受療動向が伺える。

がん医療は、一刻を争う事態が生じる心筋梗塞や脳卒中等の疾患と比べ、比較的緊急性を要することが少ないため、患者が医療機関や専門医等の評判を聞いたり、主治医の紹介で医療機関が決定する場面が多い。都では交通網の発達も相まって、患者自身が、高度で専門的な診療機能を有する病院を二次医療圏に拘らず都内全域の中から選択し、退院後の経過観察は地域の診療所に通院するという事例も多い。

例えば、多摩地域に居住するがん患者が、区部の大学病院で手術を受け、退院後、自宅近くの診療所に月1回通院し健康管理を行いながら、年1回は手術病院である区部の大学病院に受診して経過観察を行うということもよくある例である。

こうした状況を見ると、都のがん医療においては、二次医療圏内で患者の受診が完結するような医療体制を組むことは実態にあっていない。また、医療機関の専門分化と機能連携の促進の観点からも、都心部への医療資源の集中を是正し、二次医療圏内でがん医療を完結できる体制を整備することは現実的でない。

二次医療圏数を超えて地域拠点病院を指定することにより、都内全域で誰もが高度で専門的な医療から、緩和ケアや在宅医療まで切れ目ないがん医療を受けられる体制を整備することができる。二次医療圏に捉われず、既存の医療資源を活かして、力のある病院を指定することが、都民のがん医療への安心につながる。

イ 地域拠点病院間の機能的役割分担及び相乗効果

◆ 目標

どこでどのような治療が受けられるのか、都民の選択に資する各地域拠点病院の「強み」を、よりわかりやすく明示

二次医療圏数を超えて指定することは、切れ目のないがん医療の提供体制が整備されるとともに、各拠点病院の特長、強みを活かし、お互いの診療ネットワークを活用することにより、さらなるがん医療の均てん化が図られる。

① 区西部における機能的役割分担

区西部においては、現在地域拠点病院として指定されている東京女子医科大学病

- 集学的治療、標準的治療、緩和ケアの提供等、専門的ながん医療の提供
(地域において質の高いがん医療を効率的に提供するための診療機能の向上)
- がん診療の連携協力体制の整備
(地域の医療機関に対する研修や地域連携クリティカルパスによる連携推進)
- がん患者に対する相談支援及び情報提供

があげられる。

都のがん医療の均てん化を推進し、圏域を越えたがん診療の中心的役割、高度ながん医療の提供、相談対応の充実、中小病院・かかりつけ医への支援、がん登録の推進など、拠点病院に求められる役割を果たしていくためには、都の人口、患者、医療資源等を勘案すると、二次医療圏数を超えた整備が必要である。

都の二次医療圏の平均人口は全国の2.6倍であり、拠点病院についても二次医療圏に1か所の原則に対して、同様に2.6倍の34か所程度(13医療圏×2.6)が必要であると考えている。

(3) 二次医療圏数を超えて地域拠点病院を指定することによる効果

- ① がん診療における連携協力体制
 - ア がん患者の通院圏域

- ◆ 二次医療圏を越えた圏域外からのがん患者の流入割合
 - 区中央部医療圏 82.5%
 - 区西部医療圏 63.8%
 - 区西南部医療圏 52.8%

◆ 目標

どのような部位であれ、どのような治療方法であれ、都民の誰もがどの選択に応じて、都内全域で高度な専門的医療から在宅医療・緩和ケアまで、切れ目のないがん医療をうけることができる体制を整備

都は、東西90km、南北25km、面積2,186.96km²の中に、病院が600施設、診療所が約12,600施設、合計で約13,200施設と、高度な医療を提供可能な病院から、住民に身近な地域でのプライマリーケアを提供する診療所まで、全国で最も

トップクラス。

これらの特長をもつ2病院が拠点病院として指定されることにより、小線源治療など高度な放射線治療の実施によるがん治療成績の向上、緩和ケアの地域への普及促進などの取組が進む。

③北多摩南部医療圏における機能的役割分担

北多摩南部においては、現在地域拠点病院として指定されている武蔵野赤十字病院、杏林大学医学部付属病院、今回新規申請をする都立多摩総合医療センターについては、それぞれ以下のような特長がある。

武蔵野赤十字病院

- 特に、ラジオ波焼灼法など肝がんの治療実績が多い。
- がん患者療養支援事業（ピアカウンセリング事業）の実施など、がん患者との連携について積極的な取組

杏林大学医学部付属病院

- 特に消化器がん、乳がんの治療実績が多い。
- キャンサーボードを活用した研修医の研修やがん専門医、がん薬物療法専門医の養成など、大学病院として医療従事者育成について十分な実績

都立多摩総合医療センター

- 早くから腹腔鏡手術に取り組んでおり、大腸癌・胃癌・肝臓癌（転移性含む）等へ積極的に取り入れている。
- 多摩地域唯一の都立総合病院として、多摩地域におけるがん治療の中核として集学的治療を実施。また、治療だけでなく、相談支援、退院後の地域連携や緩和ケアの充実等に力を入れている。

これらの特長をもつ3病院が拠点病院として指定され、連携・協力して取り組むことにより、高度ながん医療提供とともに、がん医療従事者の育成、患者への相談支援の向上などの取組が進む。

以上のように、各拠点病院の取組は、二次医療圏の枠にとどまらず、都全体のがん医療のレベルアップに繋がるといえ、力のある医療機関が拠点病院として複数指定されることにより、都全体のがん医療の充実が図られるといえる。

院、今回新規申請をする慶應義塾大学病院及び東京医科大学病院については、それぞれ以下のような特長がある。

東京女子医科大学病院

- 特に、胃がん、大腸がんなど消化器がんの高い診療実績
- がんセンターを設置し、相談支援センター、緩和ケア、化学療法、がん登録の取組を集約化
- 地域医療連携室を中心に、地域連携、在宅医療推進に積極的な取組
- 緩和ケアチーム、緩和ケア病棟を設置

慶應義塾大学病院

- 外来化学療法部門、放射線治療部門、緩和医療部門、がんリハビリテーション部門、低侵襲療法研究開発部門からなる腫瘍センターの設置により、院内の連携体制を構築。
- がんプロフェッショナルプランによる人材育成への積極的な取組。
- 全国を先導する「がんリハビリテーション」の取組

東京医科大学病院

- 早期がんへの低侵襲治療（腹腔鏡下手術や早期肺がんへの内視鏡レーザー手術等）とともに進行がんへの集学的治療の実施
- 日本で初めて前立腺がんへのロボット支援手術を開始するなど先進医療への積極的な取組も実施。

これらの特長をもつ3病院が拠点病院として指定され、連携・協力して取り組むことにより、高度ながん医療提供とともに、がん医療従事者の育成、緩和ケアの提供、患者への相談支援の向上などの取組が進む。

②区西南部医療圏における機能的役割

区西部においては、現在地域拠点病院として指定されている日本赤十字社医療センター、今回新規申請をする東京医療センターについては、それぞれ以下のような特長がある。

日本赤十字社医療センター

- 特に悪性リンパ腫や白血病など血液がんの治療実績が高い。
- 緩和ケア病棟を設置し、地域連携など緩和医療の積極的な取組

東京医療センター

- 放射線治療に力を入れていており、国内初のヨウ素 125 シード線源永久挿入による小線源療法を実施し、前立腺がんをはじめ、小線源治療の実績は全国

◆「東京都医療連携手帳」を活用した地域連携の取組

東京都では、拠点病院、認定病院、国立がん研究センター中央病院及び東京都医師会が協力して、都内共通の5大がん（肺がん・胃がん・肝がん・大腸がん・乳がん）の地域連携クリティカルパス「東京都医療連携手帳」を作成、平成22年2月より運用を開始した。さらに、前立腺がんの地域連携パスについても、まもなく運用を開始するところである。

平成22年4月の診療報酬改定により、がん治療連携計画策定料及びがん指導連携指導料が新たに評価された。計画策定病院とかかりつけ医などの地域の医療機関（連携医療機関）が連携して治療を行うことになるが、東京都医師会の協力のもと、連携医療機関として約2,000施設が参加し、平成22年7月より取組を開始している。

「東京都医療連携手帳」の活用により、さらなるがん医療連携の推進が期待できる。

②がん診療の質の向上

ア 専門的医療の提供

◆悪性腫瘍の手術件数（平成21年6月～7月）

都内地域拠点病院平均 329件
全国地域拠点病院平均 169件

都には、全国的にもトップクラスの診療機能を有する医療機関が多くあり、5大がん以外のがんについても、集学的な治療を実施するとともに、がんの確定診断、高度先進医療、放射線治療、緩和ケア等についても、専門スタッフの配置が充実している。

例えば、拠点病院における悪性腫瘍の手術件数（平成21年6月から7月の実績）であるが、全国平均169件と比較すると、都の場合は329件と、非常に豊富な経験症例を持つなど、多様な疾患に対応が可能であり、都における高度ながん医療の二ーズに的確に対応している。

また、拠点病院と同等の診療機能を有する病院を都独自に「東京都認定がん診療病院」として認定するなど、高度な診療機能をもつ医療機関が集積している。

こうした認定病院等を拠点病院に移行させ、拠点病院の規模を一層拡充することにより、がん診療の中心的役割を担う拠点病院が高度先進医療、集学的治療、放射線治療、緩和ケア等、がん患者に、必要な専門的医療を確実に提供できる体制が整備される。

ウ 地域の中小病院、診療所との連携協力体制

◆拠点病院1病院あたりの診療所数（単純平均）
・全国平均 264か所
・23区平均（現状） 798か所
・拠点病院を34とした場合の23区平均 280か所

◆目標

- ・都内共通の地域連携パス「東京都医療連携手帳」の一層の普及
- ・医師緩和ケア研修修了者数の拡大（約5,900人）

都には高度ながん医療が提供可能な病院から診療所まで、非常に多くの医療機関が存在するとともに（病院及び診療所数：約13,200か所）、医療機関の診療圏域が交錯しているという特徴がある。

拠点病院が中心となり、治療と緩和ケアの連携及び支援を進めるためには、これら多数の中小病院及び診療所に対応できるだけの拠点病院の規模が必要である。

また、受療行動が広域化しているがん患者個々に対応した地域の医療機関との連携体制を構築する必要がある。

現在、都では東京都がん診療連携協議会が中心となり、地域連携クリティカルパスの都内共通化（「東京都医療連携手帳」の作成）、がん医療の水準の向上などを進めているが、医療圏数を超えた拠点病院の整備されることにより、さらなる医療連携が推進される。

また、都推進計画においては、早期からの緩和ケアを提供するため、「5年以内にすべてのがん診療に携わる医師が緩和ケアに関する研修を受講」することとしている。拠点病院が実施する国のプログラムに準拠した医師緩和ケア研修は、グループワークを交え、きめ細かな内容となっているが、反面、1回あたりの研修規模が30人程度と小規模である。

都内におけるがん診療に携わる医師は少なくとも約5,900人と推計され、都推進計画に定める目標を達成するには、さらに多くの研修受講の機会が必要であり、受講機会を確保し、緩和ケアを充実するためには拠点病院の規模の拡大が必要となる。

<参考> 都における医師緩和ケア研修修了者数について

平成22年8月15日現在修了者数累積	1,402人
平成22年度修了予定者数	1,683人
平成20年度～平成22年度修了予定者累積	2,572人

がん対策の推進には、がん登録は欠かせない取組であるが、都では地域がん登録は未実施という状況にある。都は、院内がん登録の取組をできるだけ拡大した上で、地域がん登録につなげるという方向のもと、「東京都がん登録推進検討会」を設置し、地域がん登録実施に向けた具体的な検討を開始したところである。

都では、地域がん登録の開始時に目指す目標として、1M比（がん罹患数とがん死亡者数の比）が1.5以上と考えており、都内の年間がん死亡者数が約3万人であることから、年間約4万5千人の罹患情報が必要と推計している。がん登録データの効率的な収集には、がん医療に積極的に取り組んでいる医療機関の協力が欠かせないが、34の拠点病院を中心に、都立・公社病院を含む医療機関からの届出件数を約4万6千件と推計しており、特に、拠点病院においては、院内がん登録実務者の研修が要件とされるなど、精度の高いデータの収集が期待できる。

拠点病院の拡充は、長年実現の難しかった都における地域がん登録の実施に向けた体制整備を進めることに直結するといえる。

(4) 患者中心の医療提供体制

— 都におけるがん医療の整備方針 —

<都におけるがん医療提供の方向性>

～医療資源を把握し、機能・役割分担を整理～

◆医療資源の役割分担の明確化・整理

○患者の症状に的確に応じたがん医療を提供

⇔ 患者が状況に応じた医療機関を選択

○個々の医療機関の医療水準向上

○患者に分かりやすい医療提供体制

◆連携強化

○拠点病院が連携強化・地域支援の役割を一層果たすことにより、都全体の医療水準向上、患者への質の高い医療の提供

都におけるがん医療の均てん化及び連携をより一層進めるためには、拠点病院となりうるような高い診療機能を持つ医療機関が多くある都の特性を踏まえ、これらの医療機関を拠点病院と位置づけ、拠点病院同士が連携しながら地域又は都全体を支援していく体制を構築していくことが有効であると考えられる。

力のある医療機関が協力、補完しながら地域又は都全体（の医療機関）を支援していくとともに、東京都医療連携手帳などのツールを活用しつつ、各病院の連携体制を密にすることで、網目状のネットワークが構築され、患者に必要な医療が提供される体制の整備が図られる。

イ 相談体制の充実

◆拠点病院相談支援センターの相談件数（平成21年6月～7月）

都内地域拠点病院平均 527件

全国地域拠点病院平均 196件

患者からの相談に対して、そのニーズにあった相談、情報提供ができる体制が必要である。拠点病院では、相談支援センターへの国立がん研究センター主催の相談員研修者の配置が要件として定められており、質の高い相談体制の整備されている。

全国の拠点病院の相談支援センターにおける相談件数（平成21年6月～7月の実績）をみると、全国平均の196件に比べ、都の拠点病院では527件もの実績があり、拠点病院への相談ニーズが高いことを示している。

都の推計総がん患者数は15万8千人であり、多くのがん患者及びその家族の相談に対応するためには、より多くの拠点病院を整備することが必要であり、拠点病院の整備により、患者一人ひとりのニーズに的確に対応できる、きめ細かな相談体制が構築される。

ウ がん登録の推進

◆地域がん登録の必要数 ⇒ 約45,000件（1M比1.5以上）

・拠点病院（34カ所）等 ⇒ 約46,400件（推計）

◆拠点病院院内がん登録の患者把握率

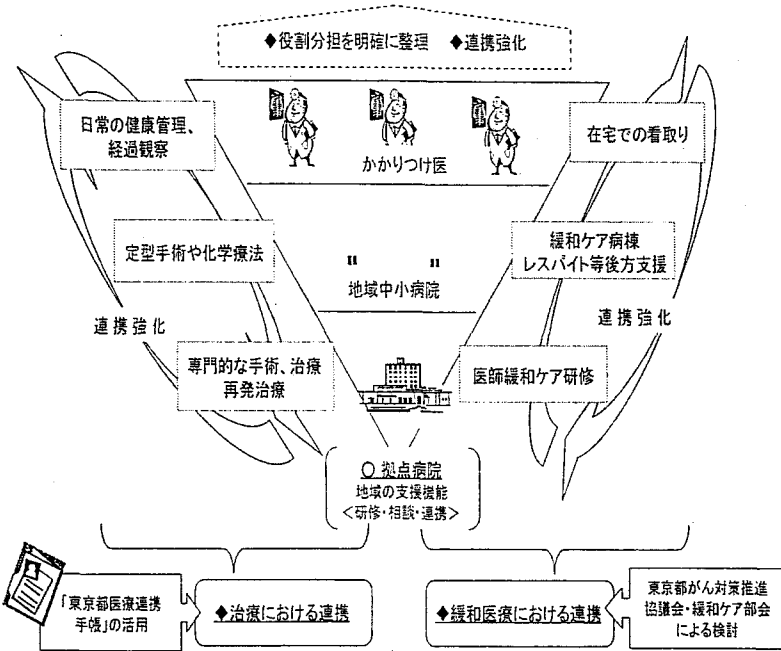
出典：「がん診療連携拠点病院 院内がん登録 2008年症例 全国集計 調査報告（概数・速報版）」

	2008年 罹患数 (推計) ※	院内がん 登録数	医療圏 数	集計対象 施設数 (拠点病院)	拠点病院 院内がん登録 患者把握率 (推計) <b/a>
	<a>				
全国	671,659	390,416	348	357	58.1%
東京都	61,401	25,489	13	15	41.5%
千葉県	28,228	20,641	9	13	73.1%
埼玉県	32,107	18,014	9	10	56.1%

※推計罹患数は、2008年がん死亡数×2005年推計1M比（1.96）により求めた。

拠点病院が増えることにより、がん登録患者把握率も向上へ

【イメージ図】 患者中心の
がん医療
都民に安心を与えるがん医療提供体制の整備



また、医療機関の役割分担を明確にすることで、個々の医療機関の水準が向上するとともに、都民に分かりやすい医療提供体制の整備につながる。

拠点病院は、専門的ながん医療を提供するとともに、中小病院やかかりつけ医と役割分担を行い、がん治療及び緩和医療における連携が推進されるよう、患者中心の医療提供体制の整備を図っていく。また、拠点病院はこうした体制整備を下支えする役割も担っていく。

具体的には、治療に関する機能・役割については、拠点病院が集学的治療など専門的な手術や治療を提供し、地域の中小病院が定型手術や化学療法を実施、かかりつけ医が日常の健康管理や経過観察を行うという役割分担のもと、医療機関の連携により適切な医療を提供していく。また、拠点病院は、共同診療計画の作成や研修、合同カンファレンス等、地域の医療機関を支援していく。

緩和医療的な視点からは、地域においても広く適切な緩和ケアが提供できるよう、拠点病院が医師向け緩和ケア研修を実施することにより、がん医療に携わる医師に広く緩和ケアの技術、視点を広めていくとともに、緩和ケア病棟や地域の中小病院においては、専門的な緩和ケアの提供、病状急変時の緊急入院やレスパイト対応のための一時入院受け入れや在宅療養患者への後方支援を行う。また、在宅療養支援診療所などかかりつけ医が中心となり、看取りも含めた在宅での療養・緩和ケアを実施するなど役割分担に基づき患者が望む療養生活の実現を図る。

具体的な役割分担を踏まえ、治療的な側面では、都内共通の地域連携クリティカルパス「東京都医療連携手帳」を活用した連携を推進し、緩和医療については、今年度設置予定の「東京都がん対策推進協議会・緩和ケアのあり方検討部会」においてさらに具体的な支援、取組を検討する予定である

こうした、二次医療圏の枠にとらわれない患者中心のネットワークを構築することより、都民に安心を与えるがん医療提供体制が整備されると考える。

(5) 推薦手続きについて

① 東京都がん診療連携拠点病院選考委員会の設置

東京都では「がん診療連携拠点病院の整備に関する指針」（以下「指針」という。）に基づき、都拠点病院の推薦施設を選定するに当たり、専門的見地からの助言を得るため、学識経験者、患者代表などから構成する「東京都がん診療連携拠点病院選考委員会」（以下「選考委員会」という。）を設置し、審査・選考を行った。

② 東京都における選考基準

選考にあたっては、指針に定められた必須要件をみたしている医療機関のうち、以下の取組状況にかかる充実度を評価し、選考した。

- 放射線治療に力を入れており、2003年に国内初のヨウ素 125 シード線源永久挿入による小線源療法を実施し、その後5年間で1,000例を越す症例を有するなど、前立腺がんをはじめ、小線源治療の実績は全国トップクラス。
- 日本がん治療認定医、放射線腫瘍学会認定、病理専門医などがん治療にかかる専門医が複数配置されている。
- 日本がん治療認定機構研修施設、日本外科学会専門医制度修練施設、日本胃癌学会胃癌全国登録事業参加施設、日本乳癌学会認定施設、日本緩和医療学会研修施設等、各学会から認定を受けている。
- 平成20年4月から東京都認定がん診療病院として認定されており、相談支援、院内がん登録、東京都医療連携手帳等を活用した地域連携に積極的に取り組んでいる。
- 地域の医療従事者を対象として「地域医療カンファレンス」(月1回)を開催し、がん登録などの情報提供等を行うとともに、緩和ケアについては「城南エリア緩和ケアカンファレンス」を主催する等、定期的な勉強会や情報交換を行っている。
- 区西南部二次医療圏内における患者住所地別流入割合をみると、東京医療センターでは渋谷区0.5%、目黒区・世田谷区79.1%であるのに対し、既指定がん診療連携拠点病院である日本赤十字医療センターでは渋谷区22.0%、目黒区・世田谷区14.0%であり、患者の受療動向からみても、地域的に日本赤十字医療センターと分担しつつ、地域のがん医療の中核を担っている。

＜参考＞

区西南部における拠点病院・認定病院を中心とした医療連携の取組

- がん診療連携拠点病院である日本赤十字医療センターと東京都認定がん診療病院である国立病院機構東京医療センター・JR東京総合病院の医療連携室の実務担当者が中心となって、東京都医療連携手帳の活用に向けて、二次医療圏共通の運用方法について協議する等、地域連携について連携をとりながら進めている。

- ① 緩和ケア（緩和ケアチーム、緩和ケア外来等）の取組状況
- ② 相談支援体制
- ③ 院内がん登録の実施状況
- ④ 特定機能病院を指定する場合は放射線療法部門及び化学療法部門の設置状況
- ⑤ 専門的ながん医療の提供状況（新入院がん患者数、治療実績等）
- ⑥ 地域の医療機関への診療支援、連携体制（研修実績、医療連携の取組等）
- ⑦ 既指定病院については、拠点病院としての取組実績

上記の取組状況を確認するため、各病院に対して都職員によるヒアリングを実施し、選考委員会において、ヒアリング結果や各病院の取組状況等について総合的に評価を行ったうえで、東京都における拠点病院の推薦施設を選考した。

3 地域がん診療連携拠点病院の推薦について

(1) 独立行政法人国立病院機構東京医療センターの推薦について

ア 所在する圏域の特徴

医療圏名	構成区	人口 (20.10.1)	面積 (k m ²)	病院数 (20.10.1)	診療所 (20.10.1)	病院病床数 (20.10.1)	人口10万対 病院病床数
区西南部	目黒・世田谷 ・渋谷	1,334,942	87.89	53	1,615	11,570	866.7

イ 推薦理由

○ 診療実績

区西南部の患者を中心に、がん全般にわたり高い治療実績
・新入院がん患者数 3,703人/年、悪性腫瘍手術件数 273件/4ヶ月

病床数	780床
年間新入院がん患者数(割合)	3,703人(22.4%) /年
年間外来がん患者延数	66,086人/年
悪性腫瘍手術総数	273件/4ヶ月
放射線治療(体外照射)【患者実数】	756人/年
化学療法総数(入院)【延べ患者数】	483人/4ヶ月
化学療法総数(外来)【延べ患者数】	370人/4ヶ月
緩和ケアチーム新規依頼件数	20件/2ヶ月
相談支援センター相談件数	208件/2ヶ月

(3) 東京医科大学病院の推薦について

ア 診療実績

部内の患者を中心に、がん全般にわたり高い治療実績

・新入院がん患者数 5,486 人/年、悪性腫瘍手術件数 730/4ヶ月

病床数	1,015 床
年間新入院がん患者数 (割合)	5,486 人 (27.3%) /年
年間外来がん患者延数	95,207 人/年
悪性腫瘍手術総数	730 件/4ヶ月
放射線治療 (体外照射) 【患者実数】	684 人/年
化学療法総数 (入院) 【延べ患者数】	520 人/4ヶ月
化学療法総数 (外来) 【延べ患者数】	998 人/4ヶ月
緩和ケアチーム新規依頼件数	7 件/2ヶ月
相談支援センター相談件数	82 件/2ヶ月

- 早期がんへの低侵襲治療 (腹腔鏡下手術や早期肺がんへの内視鏡レーザー手術等) とともに進行がんへの集学的治療の実施とともに、日本で初めて前立腺がんへのロボット支援手術を開始するなど先進医療への積極的な取組も実施。総合病院として、合併症にも幅広く対応。
- 日本がん治療認定医、がん薬物療法専門医、放射線腫瘍学会認定、病理専門医などがん治療にかかる専門医が複数配置されている。
- 平成 20 年 4 月から東京都認定がん診療病院として認定されており、相談支援、院内がん登録、東京都医療連携手帳等を活用した地域連携に積極的に取り組んでいる。
- 高度な医療、豊富な症例を活かし、地域の医療機関に対し、早期診断に関する研修や合同カンファレンス等を多数開催する等、地域の医療機関への支援に積極的に取り組んでいる。

<参考>

区西部における拠点病院・認定病院を中心とした医療連携の取組

- 区西部において、がん診療連携拠点病院である東京女子医科大学病院、東京都認定がん診療病院の慶應義塾大学病院、東京医科大学病院、東京厚生年金病院の 4 病院が「がん医療ネットワーク」を立ち上げ、医療連携実務者が中心となり、相談支援や医療連携における病院間の情報交換等、積極的な連携を行っている。
- また、区西部においては、東京都医療連携手帳の普及・促進に向けて、4 病院合同で地域の医療機関に対する説明会を開催する等、地域連携の取組を積極的に行っている。

(2) 慶應義塾大学病院の推薦について

ア 所在する区域の特徴

医療圏名	構成区	人口 (20.10.1)	面積 (k m ²)	病院数 (20.10.1)	診療所 (20.10.1)	病院病床数 (20.10.1)	人口 10 万対 病院病床数
区西部	新宿・中野 ・杉並	1,168,346	67.84	45	1,438	10,905	933.4

イ 推薦理由

○ 診療実績

部内だけでなく他県からの患者流入も多く、がん全般にわたり高い治療実績

・新入院がん患者数 6,407 人/年、悪性腫瘍手術件数 732 件/4ヶ月

病床数	1,061 床
年間新入院がん患者数 (割合)	6,407 人 (26.0%) /年
年間外来がん患者延数	121,094 人/年
悪性腫瘍手術総数	732 件/4ヶ月
放射線治療 (体外照射) 【患者実数】	921 人/年
化学療法総数 (入院) 【延べ患者数】	514 人/4ヶ月
化学療法総数 (外来) 【延べ患者数】	541 人/4ヶ月
緩和ケアチーム新規依頼件数	34 件/2ヶ月
相談支援センター相談件数	664 件/2ヶ月

- 年間の患者数及び症例数が非常に多く、部内だけでなく、全国の患者へ高度かつ専門的ながん医療を提供
- 低侵襲治療により患者への負担が少ない治療を選択するほか、外来化学療法については、今後 60 床に増床予定であり患者本位の治療を実施。
- 外来化学療法部門、放射線治療部門、緩和医療部門、がんリハビリテーション部門、低侵襲療法研究開発部門からなる腫瘍センターの設置により、診療科の垣根を越えた院内の連携体制を構築。
- がんプロフェッショナルプランによるがん専門医の養成のほか、がん専門看護師やがん薬物療法認定薬剤師などコメディカルも含め、人材育成への積極的な取組。
- 全国を先導する「がんリハビリテーション」の積極的な取組
- 平成 20 年 4 月から東京都認定がん診療病院として認定されており、相談支援、院内がん登録、東京都医療連携手帳等を活用した地域連携に積極的に取り組んでいる。
- 高度な医療、豊富な症例を活かし、地域の医療機関に対し、早期診断に関する研修や合同カンファレンス等を多数開催する等、地域の医療機関への支援に積極的に取り組んでいる。

院が認定病院として、地域のがん医療の中核となって、今後ともがん医療連携を進めていく必要がある。

(5) 東京都立多摩総合医療センターの推薦について

ア 所在する圏域の特徴

医療圏名	構成区	人口 (20.10.1)	面積 (k.m ²)	病院数 (20.10.1)	診療所 (20.10.1)	病院病床数 (20.10.1)	人口10万対 病院病床数
北多摩南部	武蔵野・三鷹・ 府中・調布・小 金井・狛江	987,113	95.82	47	821	10,659	1079.8

イ 推薦理由

○診療実績

北多摩南部及び隣接する北多摩西部の患者を中心にがん全般にわたり高い治療実績

・新入院がん患者数 4,429 人/年、悪性腫瘍手術件数 477 件/4ヶ月

病床数	789 床
年間新入院がん患者数 (割合)	4,429 (25.0%) /年
年間外来がん患者延数	111,224 人/年
悪性腫瘍手術総数	477 件/4ヶ月
放射線治療 (体外照射) 【患者実数】	622 人/年
化学療法総数 (入院) 【延べ患者数】	414 人/4ヶ月
化学療法総数 (外来) 【延べ患者数】	925 人/4ヶ月
緩和ケアチーム新規依頼件数	28 件/2ヶ月
相談支援センター相談件数	229 件/2ヶ月

- 早くから腹腔鏡手術に取り組んでおり、大腸癌・胃癌・肝臓癌 (転移性含む) 等へ積極的に取り入れている。食道癌に対しては、頸部・開腹操作を先行させた後縦隔経路・高位胸腔内吻合再建法を採用し、術後早期の退院が可能。
- 新病院となった平成 22 年 3 月から、外来化学療法センターを 8 床から 27 床に拡充、リニアックを増設し、患者数や実施件数が増加している。
- 院外患者からの相談件数の増加、がん患者ボランティアと協同した定期的な患者サロン (週 2 回のサロンと月 1 回のミニ講習会) の実施など、相談支援センターにおける積極的な取組がある。
- 多摩地域唯一の都立総合病院として、多摩地域におけるがん治療の中核として集学的治療を実施 (平成 22 年 3 月 1 日に、都立府中病院から全面移転)

(4) 公立昭和病院の推薦について

ア 所在する圏域の特徴

医療圏名	構成区	人口 (20.10.1)	面積 (k.m ²)	病院数 (20.10.1)	診療所 (20.10.1)	病院病床数 (20.10.1)	人口10万対 病院病床数
北多摩北部	小平・東村山・ 清瀬・東久留 米・西東京	717,598	76.59	43	464	9,564	1332.8

イ 推薦理由

○診療実績

北多摩北部の患者を中心に、がん全般にわたり高い治療実績

・新入院がん患者数 2,411 人/年、悪性腫瘍手術件数 331 件/4ヶ月

病床数	518 床
年間新入院がん患者数 (割合)	2,411 人 (21.1%) /年
年間外来がん患者延数	27,108 人/年
悪性腫瘍手術総数	331 件/4ヶ月
放射線治療 (体外照射) 【患者実数】	356 人/4ヶ月
化学療法総数 (入院) 【延べ患者数】	128 人/4ヶ月
化学療法総数 (外来) 【延べ患者数】	201 人/4ヶ月
緩和ケアチーム新規依頼件数	9 件/2ヶ月
相談支援センター相談件数	734 件/2ヶ月

- 内視鏡手術による治療実績が多く、特に胃がんについては、内視鏡的胃粘膜下層剥離術を積極的にやっている。
- 北多摩北部圏域の基幹病院として、8 市 (小金井市、小平市、東村山市、東久留米市、清瀬市、東大和市、武蔵村山市及び西東京市) が共同で設置・運営されているため、地域のニーズに迅速に対応できる体制となっている。
- 圏域内に対応可能な病院が少ない前立腺がん、歯科・口腔外科、放射線治療の紹介率が高く、地域の中核病院としてがん治療を行っている。
- 北多摩北部医療圏内の医療機関に対し、得意分野等に関する調査を実施して相談対応に活用する等、相談支援や地域連携の積極的な取組を行っている。
- 平成 22 年 4 月から東京都認定がん診療病院として認定されており、相談支援、院内がん登録、東京都医療連携手帳等を活用した地域連携に積極的に取り組んでいる
- 平成 22 年 8 月には、地域支援病院の承認を受けている。また、開放病棟を有しているため、地域の患者の一時的な受け入れや地域の医師と共同で診療する体制をとることも可能である。
- 北多摩北部は、現在、拠点病院に指定されている病院がない中、公立昭和病

(様式2)

東京都 2次医療圏の概要

1. 圏域図

※所属する2次医療圏が分かるよう、がん診療連携拠点病院名を記載すること。

(別紙のとおり)

2. 概要

(平成22年 9月 1日現在)

2次医療圏名	面積(km ²) (※1)	人口 (※1)	人口割合 (%)	人口密度	病院数 (※2)	がん診療連携拠点病院		
						既指定病院数	今回推薦病院数	計
区中央部	63.52	754,140	5.8%	11,872.5	53	5		5
区南部	82.18	1,047,041	8.0%	12,740.8	42	2		2
区西南部	87.89	1,337,248	10.3%	15,215.0	53	1	1	2
区西部	67.84	1,173,623	9.0%	17,299.9	45	1	2	3
区西北部	113.93	1,848,146	14.2%	16,221.8	95	2		2
区東北部	98.24	1,282,276	9.9%	13,052.5	80	0		0
区東部	103.10	1,377,966	10.6%	13,365.3	53	1		1
西多摩	572.10	397,550	3.1%	694.9	30	1		1
南多摩	324.52	1,411,355	10.8%	4,349.1	81	1		1
北多摩西部	109.47	635,709	4.9%	5,807.2	25	0		0
北多摩南部	95.82	995,569	7.7%	10,390.0	47	2	1	3
北多摩北部	76.59	722,409	5.6%	9,432.2	43	0	1	1
島しょ	400.91	27,247	0.2%	68.0	1	0		0
計	2,196.72	13,010,279	100.0%	5,924.2	648	16	5	21

注1) 「人口割合」欄は、県全体の人口に対する圏域ごとの割合を記入すること。

注2) 「人口密度」欄は、各医療圏ごとに、人口/面積(km²) (小数点以下第2位四捨五入)により算出した数値を記入すること。

注3) 「病院数」欄は、拠点病院以外の病院(診療所は除く。)も含めた数を記入すること。

注4) 「今回推薦病院数」欄は、地域がん診療連携拠点病院を都道府県がん診療連携拠点病院へ、又は都道府県がん診療連携拠点を地域がん診療連携拠点病院へ指定変更する場合には()書きで、指定更新の場合には< >書きで、内数を示すこと。

※1 「東京都の人口(推計)」(平成22年4月1日現在)

※2 厚生労働省「医療施設調査」(平成20年10月1日現在)

また、治療だけでなく、多摩地域のがん医療の中核を担う病院として、相談支援、退院後の地域連携や緩和ケアの充実等に力を入れている。

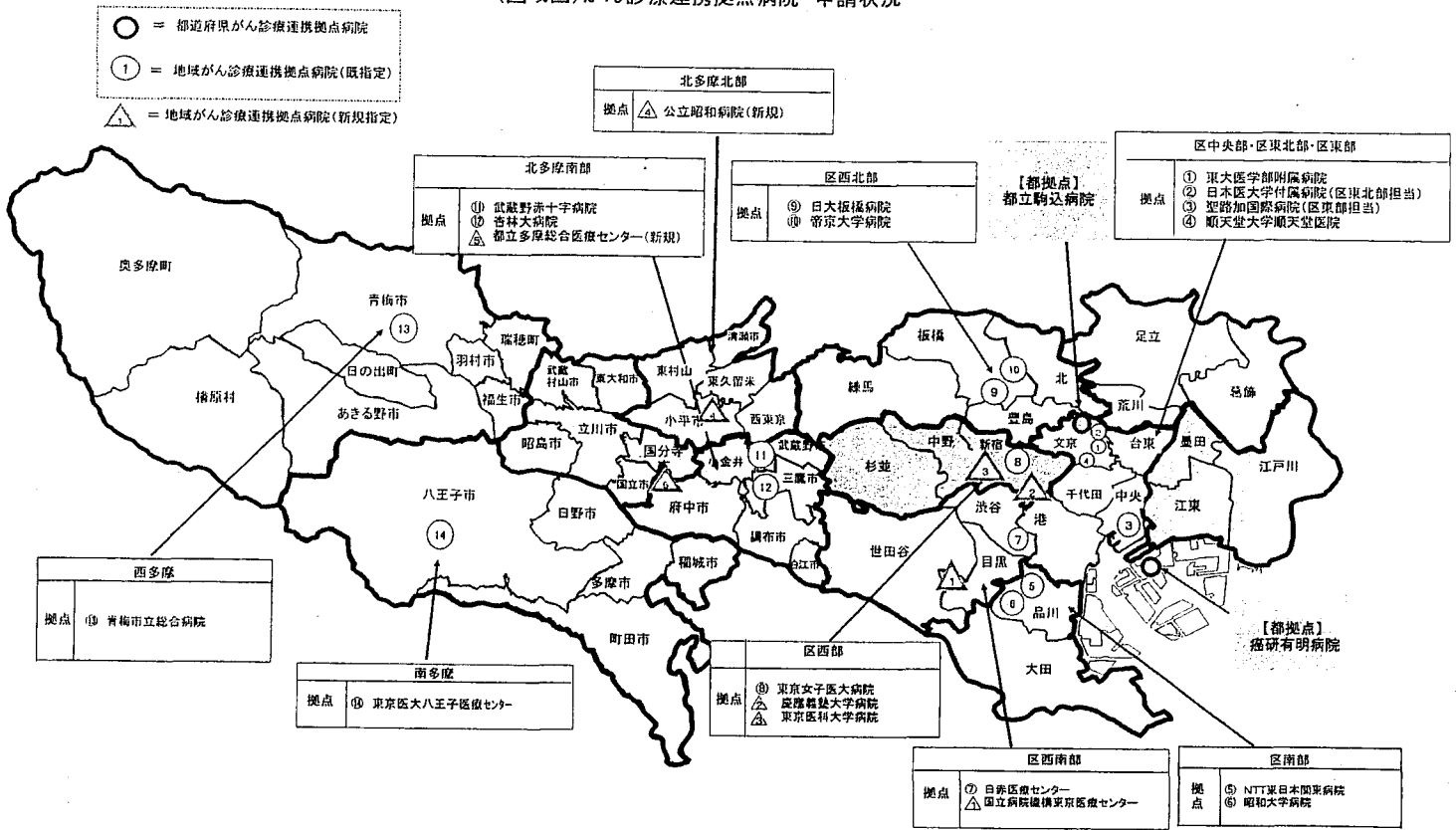
- 平成22年4月から東京都認定がん診療病院として認定されており、相談支援、院内がん登録、東京都医療連携手帳等を活用した地域連携に積極的に取り組んでいる。
- 北多摩南部には、既指定拠点病院である武蔵野赤十字病院・杏林大学病院があるが、両病院は医療圏の東部に位置しているのに対し、多摩総合医療センターは医療圏の西部(北多摩西部との境)に位置しているため、患者の受療動向から見ても、両病院と役割分担しつつ地域のがん医療の中核を担っているといえる。

<参考>

北多摩北部・南部・西部における拠点病院・認定病院の連携

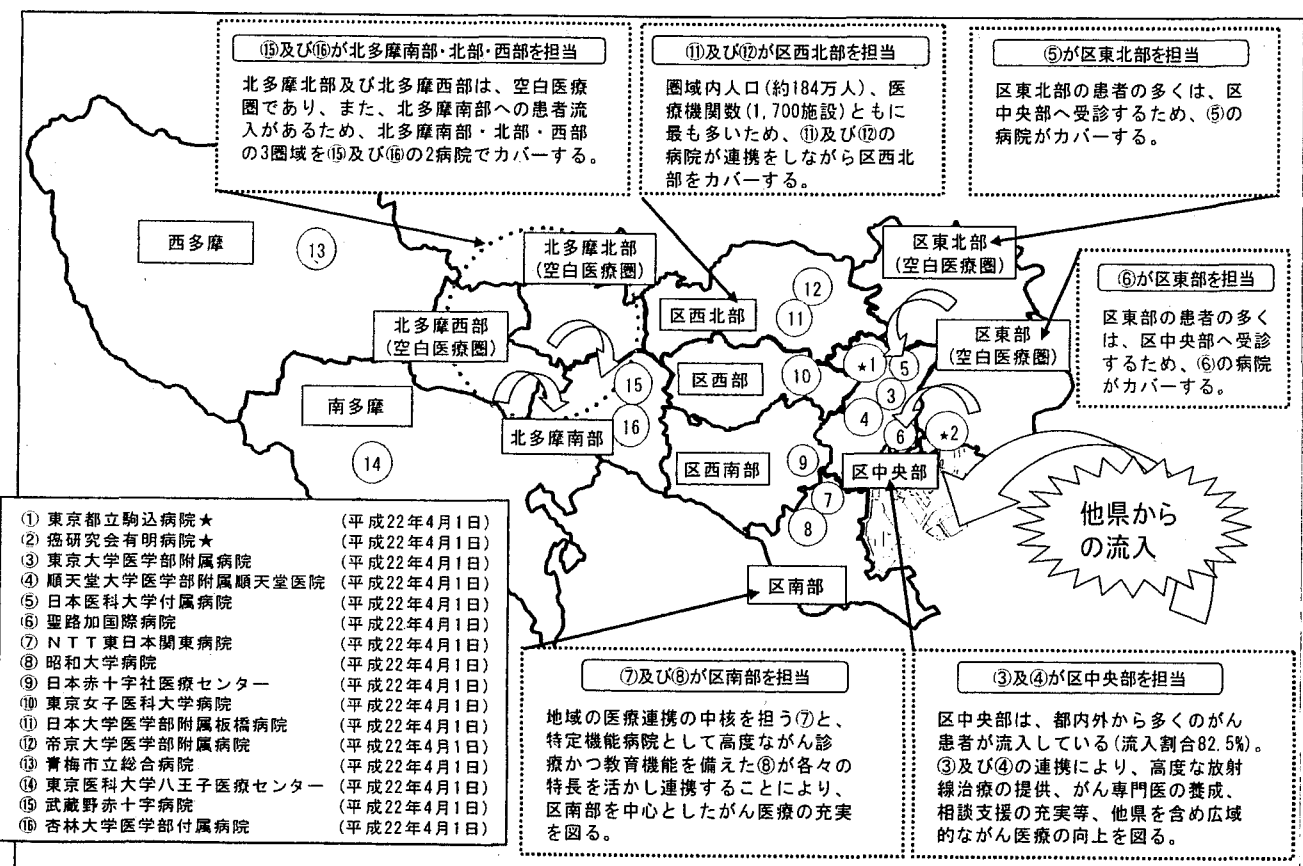
がん診療連携拠点病院である武蔵野赤十字病院・杏林大学医学部付属病院、東京都認定がん診療病院である都立多摩総合医療センター、公立昭和病院等の多摩地域の病院で、持ち回りで事務局を担当して定期的に連携会議(「多摩医療マネジメントセミナー」)を開催し、情報交換や各病院の取組を発表する等、積極的に連携に取り組んでいる。

(圏域図)がん診療連携拠点病院 申請状況



資料 1

東京都 平成22年4月1日現在の指定状況と患者受療動向



資料 2

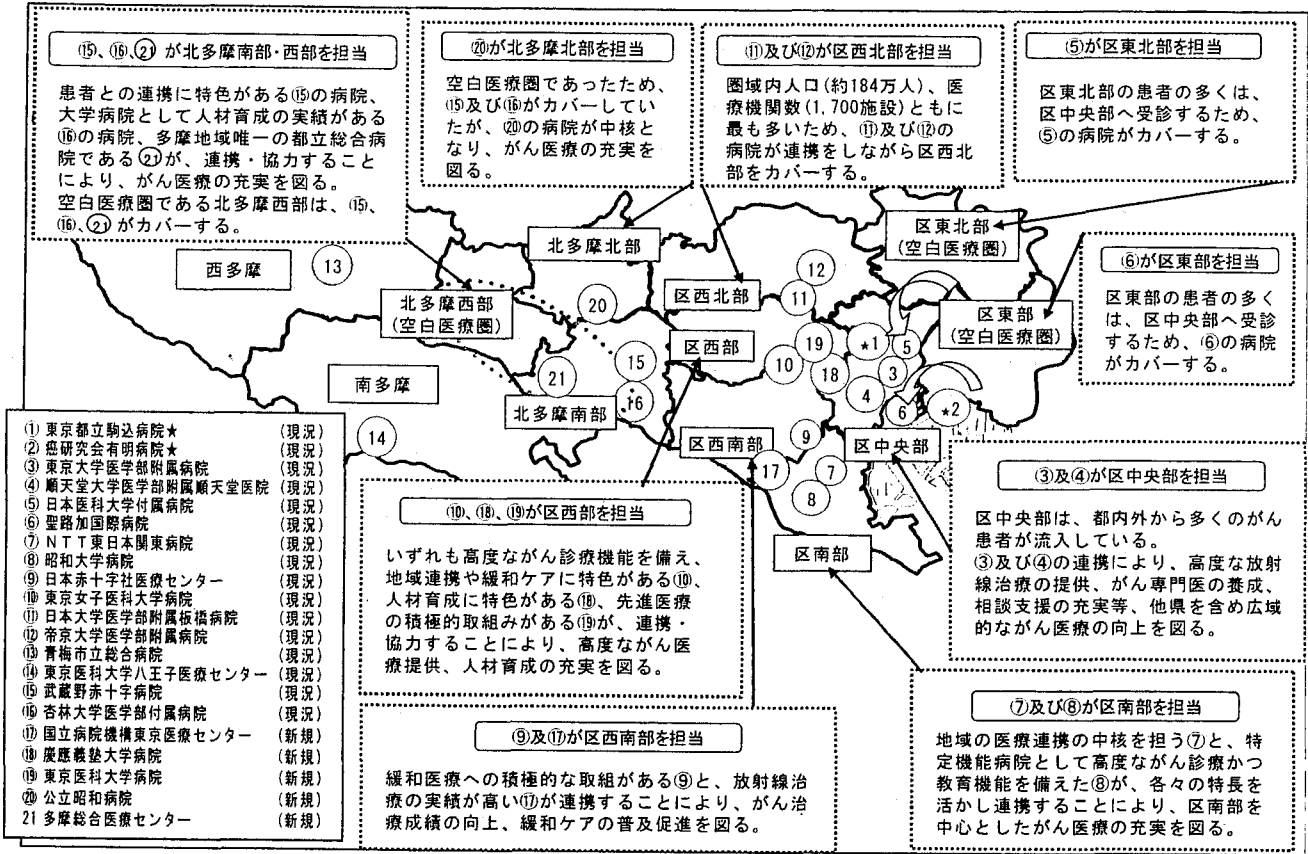
※()内は平成21年10月末提出の数値、下段は平成22年10月末提出の数値 ※申請区分は資料3の作成要領を参照のこと
 ※一枚につき11病院を超える場合には、2枚にわたって表を作成してください。 ※1については、H21年度は6~7月、H22年度は4~7月の実績となる。 ※2については、ESD+ERRの合計数を記載すること。

都道府県 or 地域	申請 区分	病院名	年間入院患者 数の状況			治療件数(手術件数)の集計 ※1											放射線治療		がんに係る薬 物療法 ※1		緩和 ケア	相談 支援 セン ター	地域 連携	
			年間新 入院 患者 数(1月 ~12 月)	年間新 入院 患者 に 占める がん 患者 の割 合(%)	悪性 腫瘍 手術 総数	肺がん		胃がん手術			大腸がん手術			肝臓がん		乳が ん	年間患者実 数 (1月~12月)		薬物療法のべ 患者数		緩和 ケア チ ーム に 対 す る 新 規 診 療 依 頼 数 (6~7 月の 集計)	相談 支 援 セ ン ター 相 談 件 数	病病 連 携・ 病診 連 携 の 受 入 件 数 (6~7 月の 集計)	
						開胸 手術	胸腔 鏡 手 術	開腹 手 術	腹腔 鏡 下 手 術	ESD ± EM R ※2	開腹 手 術	腹腔 鏡 下 手 術	内視 鏡 手 術	開腹 手 術	腹腔 鏡 下 手 術	ラジ オ 波 焼 灼 療 法	乳癌 手 術	体外照 射	小線 源 治 療	入院患 者数				外来患 者数
1	★	現況	都立駒 込病院	(8475) 8579	(62.1) 62.9	(397) 942	(3) 4	(25) 57	(27) 34	(14) 28	(8) 7	(65) 106	(12) 23	(0) 0	(9) 13	(1) 1	(52) 180	(1065) 1484	(43) 43	(521) 840	(537) 1,018	(30) 30	(2580) 1253	(969) 732
2	★	現況	癌研有 明病院	(11889) 11438	(85.8) 81.5	(900) 1799	(21) 50	(44) 68	(49) 97	(52) 89	(119) 135	(31) 37	(34) 62	(30) 161	(50) 9	(9) 9	(221) 389	(1672) 1854	(104) 97	(1109) 1898	(3940) 6735	(70) 46	(1444) 1602	(2702) 3225
3		現況	東大 病院	(8736) 8773	(34.0) 33.9	(528) 858	(8) 24	(13) 26	(18) 57	(10) 7	(21) 34	(17) 46	(6) 10	(17) 59	(22) 38	(159) 283	(29) 51	(932) 1029	(61) 66	(551) 1247	(377) 724	(107) 60	(74) 99	(254) 296
4		現況	順天堂 医院	(5338) 5567	(23.7) 24.5	(367) 699	(1) 2	(54) 80	(21) 41	(0) 0	(15) 44	(17) 22	(14) 35	(19) 18	(10) 14	(2) 22	(78) 137	(800) 784	(38) 34	(315) 708	(666) 1768	(49) 43	(133) 200	(418) 568
5		現況	日医大 病院	(5322) 5702	(30.8) 32.2	(454) 884	(9) 2	(13) 43	(9) 13	(13) 43	(6) 37	(8) 25	(12) 22	(0) 0	(0) 0	(8) 18	(23) 59	(728) 709	(75) 69	(302) 416	(342) 429	(24) 66	(214) 344	(297) 252
6		現況	聖路加 病院	(3346) 3423	(20.6) 20.2	(275) 516	(6) 10	(0) 0	(12) 15	(0) 1	(8) 25	(3) 27	(11) 4	(19) 30	(0) 3	(3) 9	(139) 284	(824) 799	(15) 11	(116) 298	(459) 816	(23) 24	(434) 432	(378) 741
7		現況	NTT関東 病院	(5342) 5215	(33.5) 33.9	(301) 652	(10) 15	(14) 21	(17) 21	(6) 11	(21) 146	(30) 41	(7) 21	(20) 42	(1) 4	(52) 110	(9) 25	(687) 600	(0) 0	(445) 984	(448) 850	(35) 44	(884) 1100	(402) 388
8		現況	昭和大 病院	(3795) 3891	(23.6) 25.4	(243) 674	(1) 4	(5) 32	(7) 16	(3) 31	(8) 23	(5) 21	(4) 54	(6) 1	(6) 13	(7) 37	(4) 135	(566) 456	(68) 105	(267) 245	(171) 359	(37) 30	(228) 111	(278) 596
9		現況	日赤医 療C	(3768) 3920	(23.3) 23.7	(181) 533	(4) 2	(1) 8	(13) 29	(4) 7	(0) 1	(29) 66	(0) 1	(0) 9	(18) 23	(0) 19	(15) 7	(632) 626	(0) 0	(234) 474	(246) 458	(37) 30	(161) 119	(352) 413
10		現況	東京女 子医大	(5748) 5905	(24.2) 24.5	(412) 749	(2) 3	(29) 45	(21) 45	(5) 20	(12) 45	(30) 45	(22) 35	(4) 81	(14) 32	(20) 21	(34) 89	(987) 1060	(83) 82	(323) 568	(756) 725	(15) 48	(738) 620	(688) 723

資料 2

都道府県 or 地域	申請 区分	病院名	年間入院患者 数の状況			治療件数(手術件数)の集計 ※1											放射線治療		がんに係る薬 物療法 ※1		緩和 ケア	相談 支援 セン ター	地域 連携	
			年間新 入院 患者 数(1月 ~12 月)	年間新 入院 患者 に 占める がん 患者 の割 合(%)	悪性 腫瘍 手術 総数	肺がん		胃がん手術			大腸がん手術			肝臓がん		乳が ん	年間患者実 数 (1月~12月)		薬物療法のべ 患者数		緩和 ケア チ ーム に 対 す る 新 規 診 療 依 頼 数 (6~7 月の 集計)	相談 支 援 セ ン ター 相 談 件 数	病病 連 携・ 病診 連 携 の 受 入 件 数 (6~7 月の 集計)	
						開胸 手術	胸腔 鏡 手 術	開腹 手 術	腹腔 鏡 下 手 術	ESD ± EM R ※2	開腹 手 術	腹腔 鏡 下 手 術	内視 鏡 手 術	開腹 手 術	腹腔 鏡 下 手 術	ラジ オ 波 焼 灼 療 法	乳癌 手 術	体外照 射	小線 源 治 療	入院患 者数				外来患 者数
11		現況	日大板 橋病院	(4334) 4501	(24.0) 25.1	(201) 525	(6) 14	(1) 3	(8) 16	(0) 0	(3) 23	(21) 36	(0) 0	(9) 53	(0) 0	(37) 68	(661) 663	(11) 12	(330) 457	(279) 406	(9) 22	(103) 57	(541) 500	
12		現況	帝京大 病院	(3243) 3537	(19.1) 21.0	(246) 426	(0) 1	(9) 16	(11) 11	(1) 5	(9) 17	(8) 15	(13) 32	(1) 10	(9) 8	(0) 8	(32) 54	(547) 507	(12) 8	(209) 390	(225) 468	(30) 30	(274) 657	(270) 181
13		現況	青梅市 立病院	(2378) 2244	(20.4) 20.0	(93) 189	(7) 7	(0) 2	(6) 12	(0) 1	(4) 5	(19) 32	(1) 1	(2) 16	(2) 3	(16) 20	(192) 187	(2) 0	(114) 140	(202) 271	(11) 7	(102) 127	(287) 245	
14		現況	八王子 医療C	(2861) 3053	(22.1) 23.9	(175) 312	(12) 8	(0) 3	(10) 15	(2) 3	(8) 2	(13) 11	(1) 6	(0) 5	(3) 0	(0) 5	(25) 53	(447) 444	(0) 0	(170) 270	(176) 208	(41) 39	(35) 143	(210) 166
15		現況	武蔵野 赤十字	(2256) 2469	(22.5) 24.6	(333) 465	(4) 5	(1) 9	(18) 17	(2) 9	(11) 24	(30) 55	(9) 17	(79) 0	(0) 4	(60) 104	(38) 58	(420) 464	(0) 0	(534) 1027	(268) 370	(17) 18	(671) 664	(767) 184
16		現況	杏林大 病院	(3284) 3560	(15.5) 16.1	(163) 415	(16) 1	(8) 10	(7) 11	(7) 17	(11) 36	(35) 53	(5) 16	(6) 103	(6) 8	(9) 21	(36) 75	(563) 627	(28) 22	(403) 678	(424) 911	(30) 23	(351) 350	(115) 349
17		新規	東京医 療C	3703	22.4	273	8	1	20	0	6	33	22	2	1	4	56	756	228	483	370	20	208	482
18		新規	慶應大 病院	6407	26.0	732	6	52	19	18	35	32	26	150	12	20	67	921	95	514	541	34	664	454
19		新規	東京医 大病院	5486	27.3	730	0	62	11	2	25	28	16	231	8	15	83	684	36	520	998	7	82	451
20		新規	公立昭 和病院	2411	21.1	331	2	13	18	9	25	50	7	3	6	7	30	356	0	128	201	9	734	179
21		新規	多摩総 合C	4429	25.0	477	3	14	10	19	44	32	44	1	4	6	41	622	15	414	925	28	229	942

東京都 平成23年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向



東京都の地域特性

①都の拠点病院数は全国の24分の1

《都の人口規模、がん患者数等》

- 都の人口 約1,300万人 ⇒ 全国の1/10
- 都民の総がん患者数(推計) 約15万8千人 ⇒ 全国の1/10
- 二次医療圏の平均人口 約97万人 ⇒ 全国平均の約2.6倍
- 都内の拠点病院数 16病院 ⇒ 全国(377)の1/24

②他道府県からの患者流入割合が約40%

- ・ 拠点の患者4割は他県からの流入(主に埼玉、神奈川、千葉)
- 23区内地域拠点病院の流入状況 ⇒ 36.4%
- 区中央部拠点病院の流入状況 ⇒ 33.3%
- 区西部拠点病院の流入状況 ⇒ 34.0%
- 全国平均の流入状況 ⇒ 5.5%

二次医療圏数を越えて拠点病院を指定することによる効果

①患者中心のがん診療連携体制

切れ目のないがん医療提供体制の整備

- 全国最多の医療機関数、交通網の発達 ⇒ 医療圏を越えた受療動向
- 医療圏数に捉われない指定 ⇒ 患者の選択に応じた、切れ目のないがん医療の提供が可能

圏域外からのがん患者流入割合

- ・ 区中央部医療圏 82.5%
- ・ 区西部医療圏 63.8%
- ・ 区西南部医療圏 52.8%

地域の中小病院、診療所との連携

- 都内共通地域連携バス「東京都医療連携手帳」の一層の普及(2,000超の診療所が連携に参加)
- 医師緩和ケア研修修了者の拡大(約5,900人)

1拠点病院あたりの診療所数

- ・ 全国平均 ⇒ 264か所
- ・ 23区平均(現状) ⇒ 798か所
- ・ 拠点病院を34とした場合の23区平均 ⇒ 280か所

②がん診療の質の向上

専門的医療の提供 (H21.6月~7月)

- 全国トップクラスの医療機関が集積 ⇒ 拠点規模拡充により高度医療を広く提供
- ・ 悪性腫瘍手術件数
- ・ 都内拠点平均 329件
- ・ 全国拠点平均 169件

相談体制の充実 (H21.6月~7月)

- 多くのがん患者へ質の高い相談を提供 ⇒ 拠点病院の整備によりきめ細かな相談を実施
- ・ 相談センターの相談件数
- ・ 都内拠点平均 527件
- ・ 全国拠点平均 196件

がん登録の推進

- 拠点の拡充により、都の地域がん登録実施に向けた体制整備を推進
- ・ 地域がん登録必要数 ⇒ 約45,000件
- ・ 拠点(34所)等 ⇒ 約46,400件

患者中心の医療提供体制

都におけるがん医療提供の方向性

医療資源を把握し、機能・役割分担を整理

医療資源の役割分担の明確化・整理

- 患者の症状に的確に応じたがん医療を提供
⇒ 患者が状況に応じた医療機関を選択
- 個々の医療機関の医療水準向上
- 患者にわかりやすい医療提供体制

連携強化

- 拠点病院が連携強化・地域支援の役割を一層果たすことにより、都全体の医療水準向上、患者への質の高い医療の提供

都民安心を促す
がん医療の提供体制の整備

拠点病院が協力しながら、地域又は都全体を支援していくとともに、東京都医療連携手帳などを活用し、各病院の連携体制を蜜にすることで、網目状のネットワークを構築

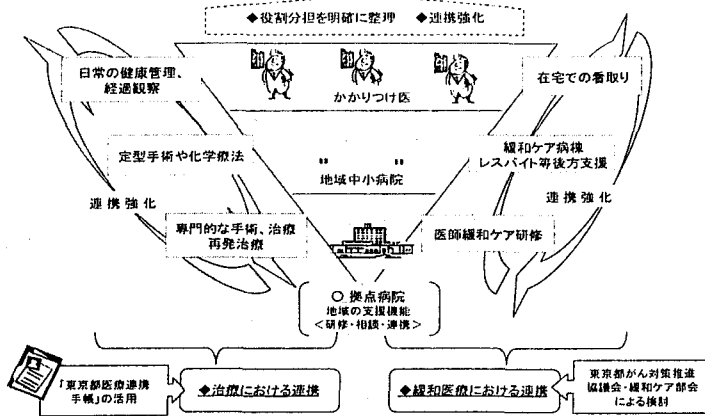
安心のがん医療

⇒ 患者に必要な医療が提供される体制を整備

患者中心の
がん医療

【イメージ図】

都民に安心を与えるがん医療提供体制の整備



拠点病院の必要規模

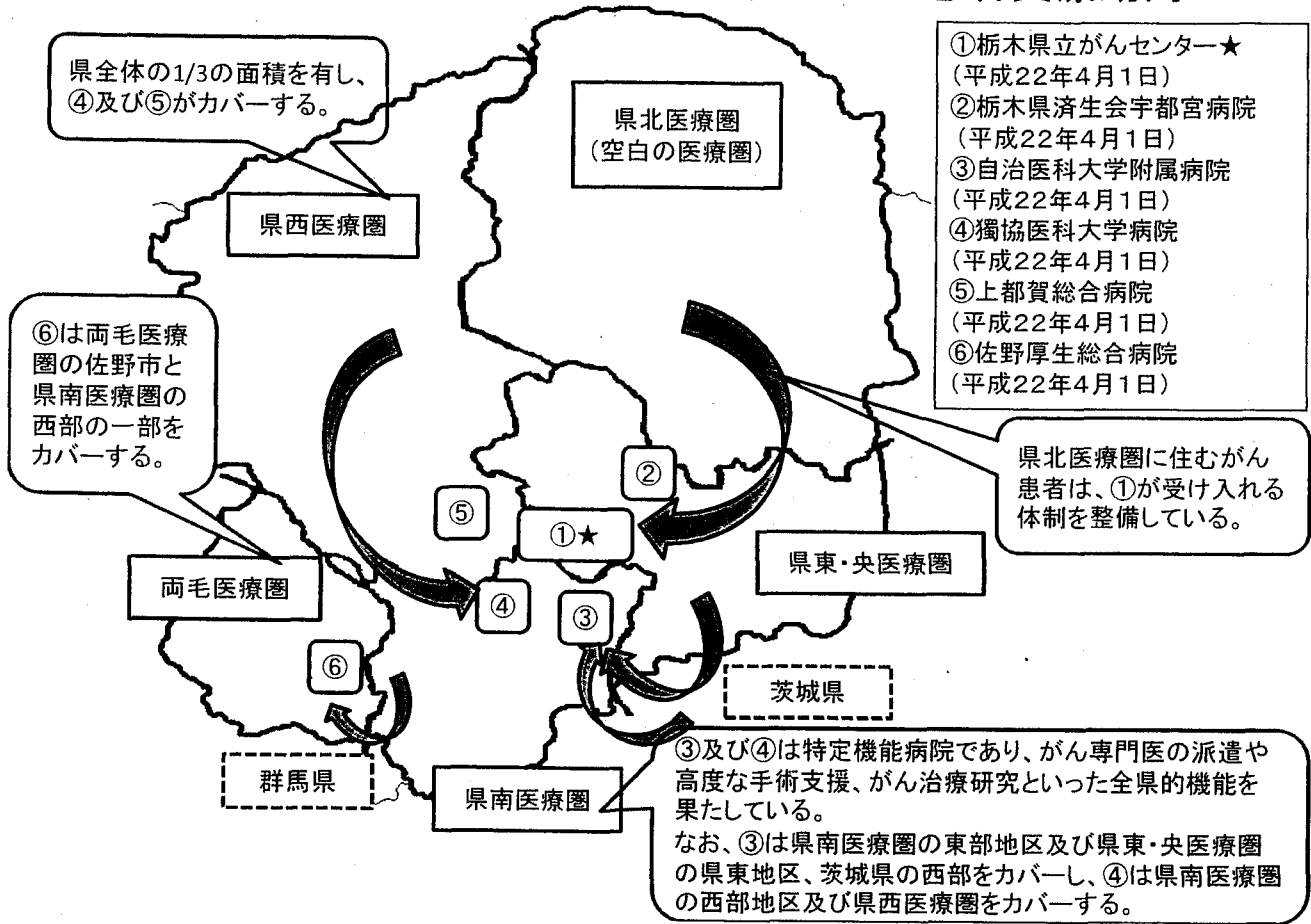
- 専門的ながん医療提供、地域連携、相談支援など拠点病院の役割を果たし、都のがん医療の均てん化を推進するためには、都の人口や医療資源、患者の受療動向等から、二次医療圏数を越えた整備が必要

都の二次医療圏平均人口：全国の2.6倍
⇒ 都の拠点必要数 34か所
(13医療圏×2.6倍)

9. 栃 木 県

栃木県平成22年4月1日現在の指定状況と患者受療動向

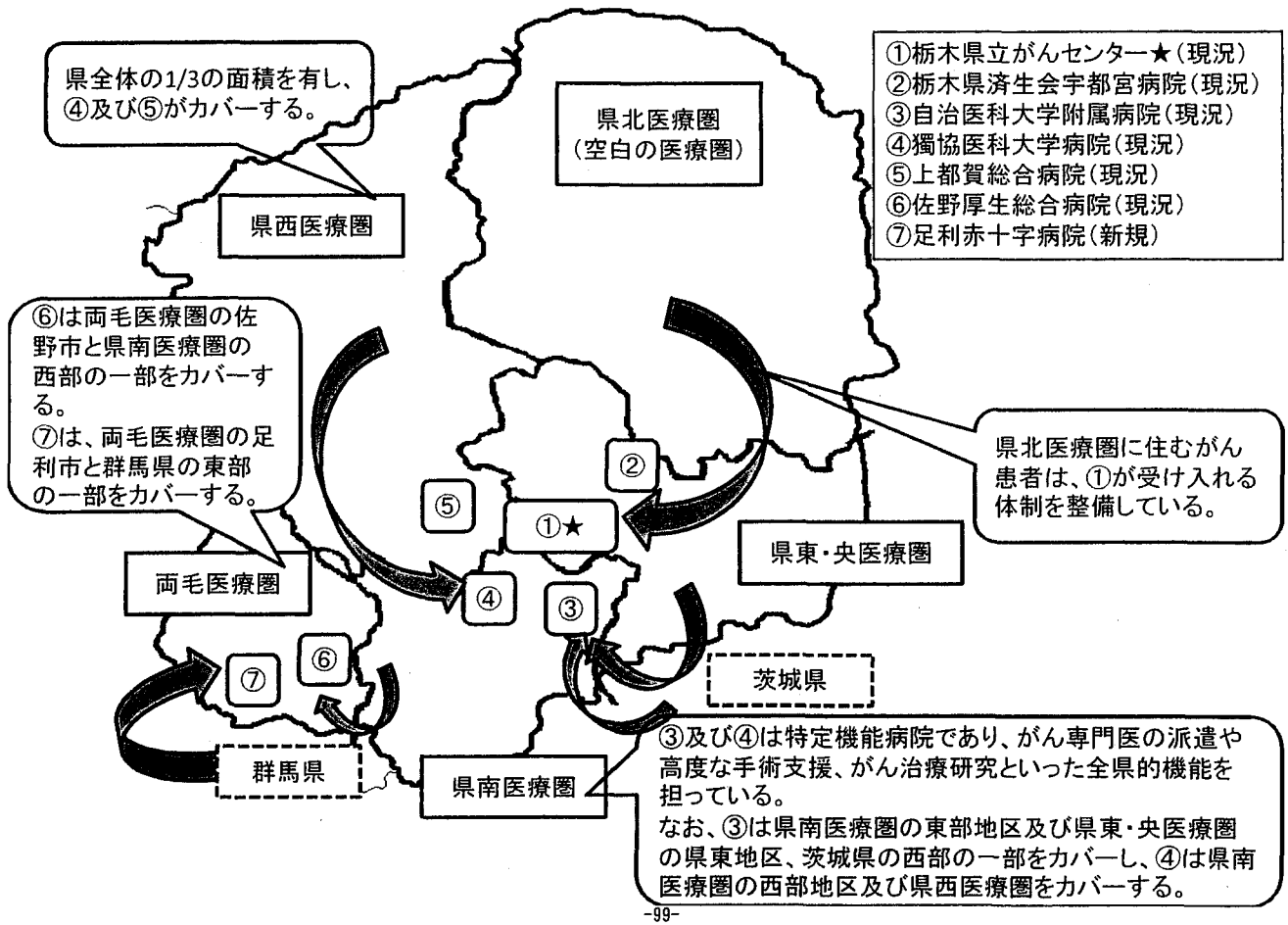
資料1



※()内は平成21年10月末提出の数値、下段は平成22年10月末提出の数値 ※申請区分は資料3の作成要領を参照のこと
※一枚につき11病院を超える場合には、2枚にわたって表を作成してください。 ※1については、H21年度は6~7月、H22年度は4~7月の実績となる。 ※2については、ESD+ERRの合計数を記載すること。

資料2

都道府県 or 地域	申請 区分	病院名	年間入院患者数の状況		治療件数(手術件数)の集計 ※1											放射線治療		がんに係る薬物療法 ※1		緩和ケア		相談支援センター	地域連携
			年間 新規 入院 患者 数 (1月 ~12 月)	年間 新規 入院 患者 数に 占める がん 患者 の割合 (%)	悪性 腫瘍 手術 総数	肺がん		胃がん手術		大腸がん手術		肝臓がん		乳がん		年間患者実数 (1月~12月)	薬物療法のべ患者数		緩和ケア チームに 対する 新規 相談 依頼数 (6~7 月の 集計)	相談 支援 センター 相談 件数			
						開胸手術	胸腔手術	開腹手術	腹腔鏡下手術	ESD ± EMR ※2	開腹手術	腹腔鏡下手術	内視鏡手術	開腹手術	腹腔鏡下手術		ラジオ 波焼 灼療法	乳癌手術			体外 照射		
1	★	現況 栃木県立がんセンター	4276 4134	(93.2) 91.6	(159) 506	(4) 4	(8) 21	(20) 31	(5) 6	(19) 32	(13) 28	(0) 9	(3) 6	(10) 7	(7) 13	(31) 70	(639) 582	(42) 42	(139) 786	(116) 939	(12) 10	(903) 742	(1071) 1057
2		現況 栃木県済生会宇都宮病院	3011 2895	(20.6) 19.3	(198) 643	(2) 3	(20) 34	(10) 36	(6) 3	(7) 13	(25) 39	(0) 0	(11) 269	(10) 5	(0) 4	(20) 43	(306) 340	(0) 0	(127) 608	(258) 1080	(8) 8	(50) 68	(552) 3102
3		現況 自治医科大学附属病院	5818 6017	(26.0) 26.9	(536) 1081	(6) 10	(21) 24	(25) 31	(13) 31	(25) 60	(24) 52	(11) 22	(16) 38	(4) 14	(8) 21	(19) 67	(1125) 885	(35) 144	(1175) 1253	(1374) 1614	(57) 60	(452) 483	(6197) 2528
4		現況 獨協医科大学病院	6190 6865	(26.5) 28.9	(292) 628	(15) 14	(6) 19	(19) 31	(9) 11	(6) 24	(31) 66	(7) 9	(4) 49	(17) 31	(9) 12	(15) 30	(658) 726	(0) 0	(413) 708	(500) 399	(48) 128	(64) 78	(765) 985
5		現況 上都賀総合病院	1159 1217	(25.1) 28.0	(31) 63	(0) 0	(0) 0	(7) 10	(0) 0	(0) 0	(4) 22	(0) 0	(1) 4	(0) 0	(0) 2	(4) 3	(50) 45	(0) 0	(16) 38	(25) 71	(6) 6	(26) 57	(130) 65
6		現況 佐野厚生総合病院	1239 1276	(15.7) 16.2	(56) 78	(0) 0	(3) 7	(10) 4	(0) 2	(5) 15	(12) 4	(0) 9	(5) 15	(0) 2	(2) 1	(7) 18	(93) 107	(0) 0	(52) 92	(72) 109	(10) 11	(67) 32	(132) 247
7		新規 足利赤十字病院	2059 2138	(19.9) 19.9	(169) 134	(0) 0	(5) 0	(8) 14	(7) 11	(3) 8	(17) 15	(7) 28	(6) 0	(2) 11	(0) 0	(7) 15	(239) 197	(0) 0	(106) 133	(150) 212	(4) 17	(41) 45	(273) 1890



栃木県 指定推薦等に係る考え方について

1. がん患者の通院圏域について

・両毛医療圏（足利市、佐野市）にはすでにごん診療連携拠点病院として佐野厚生総合病院が指定を受けているが、足利赤十字病院には隣接する群馬県（館林市・太田市・邑楽郡等）から多くの患者が受診しており、医療圏域及び県域を越えた患者受療動向がある。

【群馬県からの患者動向】

※()内の%は群馬県からの患者の割合

	平成22年度	平成23年度
新入院患者数	1,990人 (19.2%)	2,175人 (20.2%)
新入院がん患者数	316人 (15.3%)	386人 (18.1%)
外来がん患者数		5,318人 (15.8%)

2. がん診療連携拠点病院間の機能的役割分担について

【足利】
 ・消化器系がん(前立腺、膀胱等)や婦人科系がん(子宮がん等)を担当。
 ・H23.7に完成予定の新病院に、定位放射線治療等の先進治療が行える体制を整備するとともに、緩和ケア病棟(19床)を開設。

【佐野】
 ・乳腺外来を設置しており、乳腺腫瘍摘出術等に実績あり。
 ・病院内に併設した訪問看護ステーションと連携してがん患者の在宅療養を支援
 ・合併症や複雑な病態のがん患者に対応

・現在、両病院間で、診断、治療計画の策定、初回治療、初回治療後のフォロー等、各段階で迅速に役割分担し、患者の希望に応じた治療を行うなど、地域完結型医療のモデルとなるような連携体制の構築を検討中。

3. 隣接する医療圏との関係について

・足利赤十字病院は、隣接する群馬県の医師会との病診連携体制の構築に努め、各医療機関が対応できる疾患や医療処置を把握し、広域に集まった患者に対する急性期、初回治療後は地元のかかりつけ医との連携を図る等、広域での円滑な医療連携を図っている。(H22.6~7において、群馬県の約60の医療機関との間で、がん患者の受入れや紹介を行っており、また一部のがんについて地域連携クリティカルパスの運用も始まっている。)

4. 2次医療圏数を超えて拠点病院が指定される場合の効果について

①緩和ケアの充実

- ・緩和ケアの基本的な知識と技能を習得した医師等が計画的に増加（年間220～230人）
※アクションプランにおいて平成29年度末までに緩和ケア研修会を修了した医師数を2,000人と設定
- ・県内の緩和ケア病床数の増加（62床→81床）によるがん患者の療養生活のニーズに対応可能

	平成21年度末	平成22年度末 (予定)	平成24年度末 (予定)	平成29年度末 (予定)
研修会修了者医師数	224人	435人	895人	2,015人

②地域全体のがん医療水準の向上

- ・拠点病院による地域の医療機関への診療支援の促進、地域の医療機関の医療従事者を対象とした研修等の開催等による地域におけるがん医療水準の向上

③医療連携の推進

- ・地域連携クリティカルパスの運用による医療連携や機能分担の推進（平成23年10月末までに5大がんについて県共通の地域連携パス運用開始）

④がん患者及び家族への支援の充実

- ・情報発信体制の充実による患者必携等の普及促進

⑤がん登録の充実

- ・がん登録体制の強化及び協力体制の構築が図られ、県がん対策推進計画において定めた目標値（地域がん登録のD/C〇割合を25%未満とすること）を達成し、がん登録の精度向上→県のがん対策に活用
- ・院内がん登録に基づくがん診療評価及びがん患者への還元

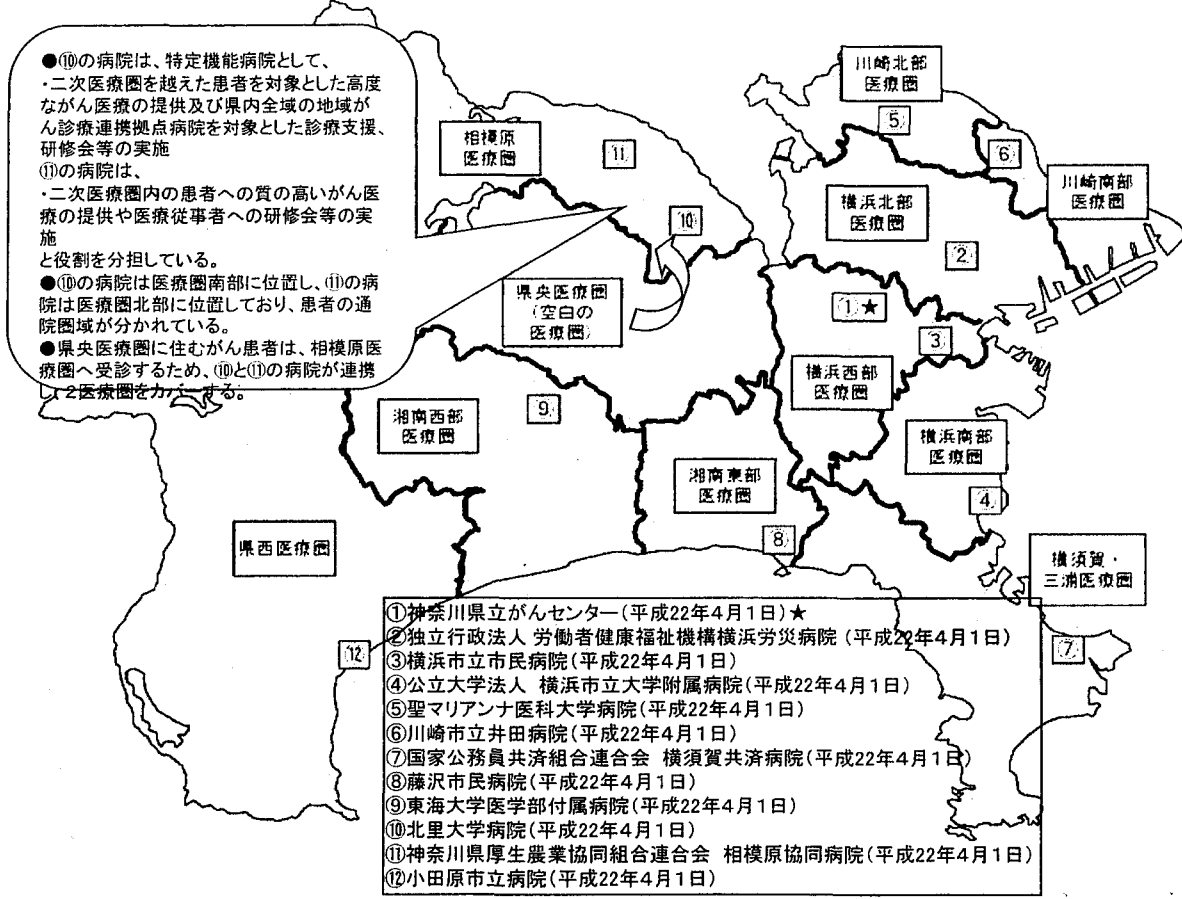
5. 県の取り組みについて

- ・他県の状況を踏まえ、7～8箇所のがん診療連携拠点病院を整備（人口25～30万人に1箇所）
- ・来年度のがん診療連携拠点病院への予算について、今回新規推薦した足利赤十字病院を含む7病院分の予算要求中。
- ・その他、緩和ケアの普及啓発事業やがん検診従事者資質向上事業、在宅療養支援環境整備事業等を実施予定。

14. 神奈川県

神奈川県 平成22年4月1日現在の指定状況等について

資料 1



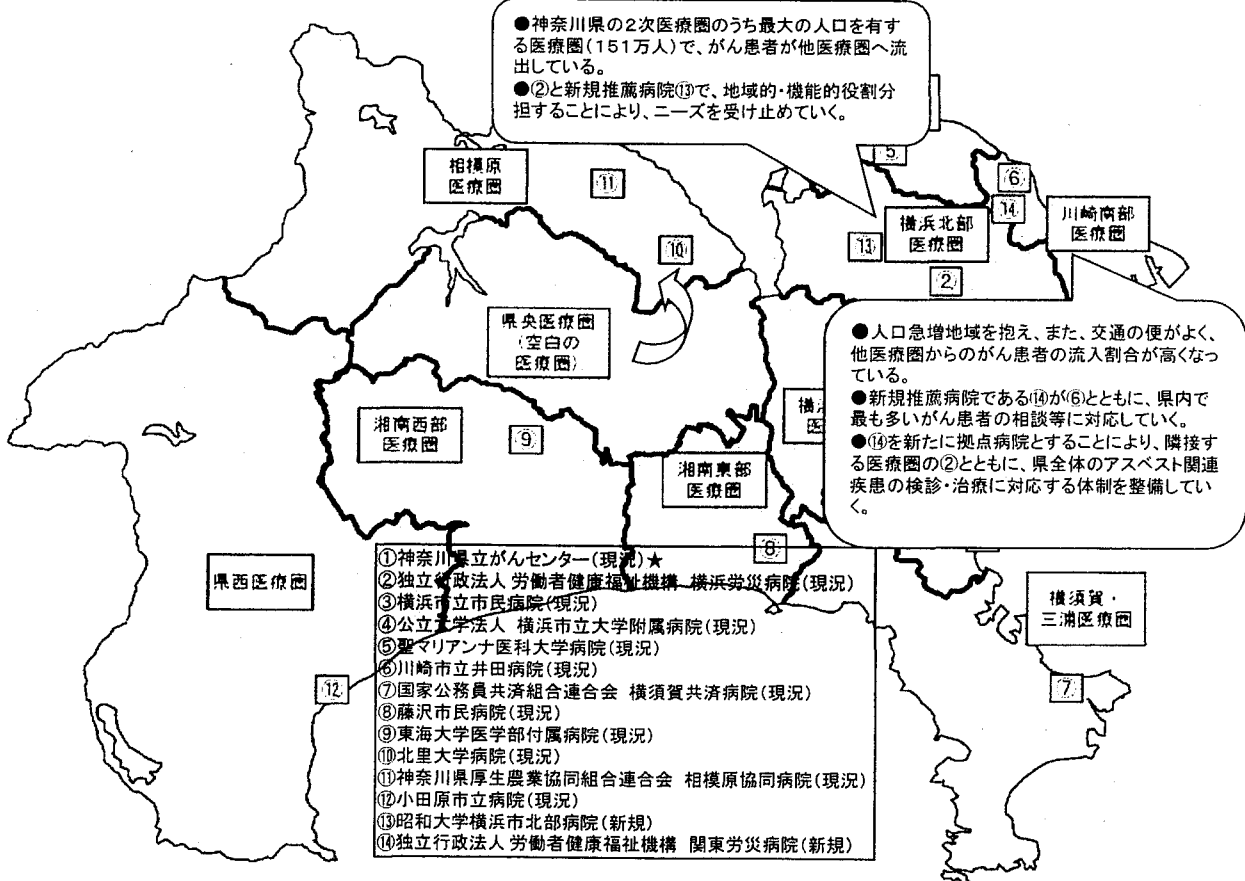
各病院における平成21年9月1日時点と平成22年9月1日時点の診療実績等の比較

資料 2-1

都道府県 or 地域	申請 区分	病院名	年間入院患者数の 状況			治療件数(手術件数)6~7月の集計												放射線治療		がんに係る薬物 療法		緩和 ケア	相談支 援セン ター	地域 連携
			年間新 入院が ん患者 数(1月 ~12 月)	年間新 入院患 者数に 占める がん患 者の割 合(%)	悪性 腫瘍 手術 総数	肺がん		胃がん手術				大腸がん 手術			肝臓がん		乳がん	年間患者数 (1月~12月)	薬物療法のべ 患者数	緩和ケ アチン 対する 新規診 療依 頼数 (6~7 月の 集計)	相談支 援セン ター相 談件数	病 連 携・ 病 診 連 携 の 受 入 数 (6~7 月の 集計)		
1	★ 現況	神奈川県立がんセンター	6,354	91.9%	52	(0)	(36)	(12)	(16)	(26)	(16)	(8)	(4)	(8)	(11)	(53)	(710)	(49)	(550)	(2,190)	(9)	(1,697)	(500)	
			7,053	93.2%	630	0	68	35	21	44	39	7	12	6	10	105	739	71	1,130	1,331	7	2,537	1,024	
2	現況	横浜労災病院	3,456	20.7%	183	(5)	(5)	(22)	(3)	(4)	(13)	(2)	(4)	(3)	(1)	(7)	(882)	(0)	(177)	(287)	(9)	(63)	(108)	
			2,547	14.2%	319	3	17	19	5	15	29	3	1	4	0	20	1,036	0	418	428	8	49	277	
3	現況	横浜市民病院	4,032	26.8%	261	(0)	(25)	(16)	(0)	(8)	(36)	(5)	(18)	(2)	(0)	(9)	(479)	(0)	(180)	(353)	(22)	(77)	(397)	
			3,779	24.1%	429	0	34	32	2	18	40	21	44	1	5	35	332	0	876	1,262	20	97	382	
4	現況	横浜国立大学附属病院	4,069	34.5%	305	(1)	(8)	(14)	(3)	(11)	(11)	(9)	(1)	(17)	(15)	(16)	(695)	(132)	(283)	(277)	(30)	(677)	(787)	
			4,060	33.4%	395	0	11	12	12	20	5	14	1	17	32	49	652	148	436	385	47	100	405	
5	現況	聖マリアンナ医科大学病院	5,680	26.9%	312	(0)	(11)	(15)	(4)	(0)	(7)	(14)	(0)	(7)	(0)	(72)	(665)	(16)	(413)	(672)	(5)	(113)	(57)	
			3,585	17.5%	566	5	33	13	16	0	15	29	0	14	0	189	335	4	679	1,108	16	678	397	
6	現況	川崎市立井田病院	(912)	24.9%	(96)	(2)	(2)	(10)	(0)	(42)	(22)	(0)	(0)	(0)	(9)	(152)	(0)	(45)	(26)	(35)	(749)	(69)		
			766	22.1%	121	6	8	13	3	10	29	3	78	0	0	28	128	0	225	198	30	727	182	
7	現況	横須賀共済病院	3,403	19.7%	286	(1)	(9)	(23)	(4)	(11)	(27)	(2)	(3)	(3)	(6)	(22)	(101)	(0)	(208)	(275)	(9)	(48)	(581)	
			4,014	22.6%	379	8	25	36	5	17	60	5	74	14	5	26	63	0	498	956	11	44	215	
8	現況	藤沢市民病院	3,151	24.2%	(87)	(1)	(0)	(9)	(0)	(1)	(11)	(1)	(0)	(0)	(0)	(13)	(306)	(3)	(417)	(511)	(6)	(127)	(721)	
			3,341	23.3%	199	15	6	16	0	1	16	4	6	4	3	17	321	0	407	653	6	98	223	
9	現況	東海大学医学部附属病院	7,172	33.7%	(306)	(21)	(15)	(14)	(1)	(12)	(39)	(7)	(15)	(10)	(4)	(39)	(1,117)	(36)	(732)	(1,257)	(25)	(368)	(174)	
			7,528	34.1%	631	19	25	34	0	35	48	6	19	7	14	91	1,056	48	568	604	32	320	215	
10	現況	北里大学病院	6,012	28.1%	(242)	(16)	(16)	(2)	(1)	(1)	(6)	(9)	(3)	(2)	(0)	(41)	(946)	(214)	(424)	(482)	(10)	(121)	(321)	
			6,048	28.6%	240	2	25	7	0	0	6	15	28	0	0	144	934	225	1,011	898	6	145	428	

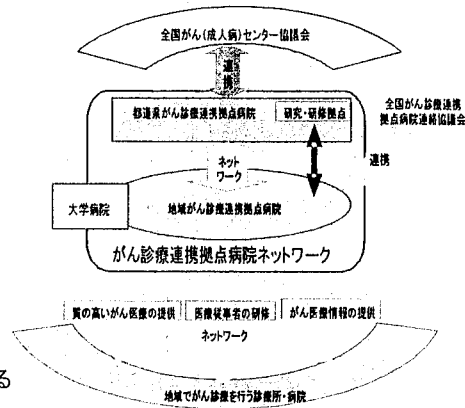
都道府県 or 地域	申請 区分	病院名	年間入院患者数の状況		治療件数(手術件数)6~7月の集計													放射線治療		がんに係る薬物療法		緩和ケア	相談支援センター相談件数	地域連携 病連携・病連携の受入数(6~7月の集計)
			年間新入院患者数(1月~12月)	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)	悪性腫瘍手術総数	肺がん			胃がん手術			大腸がん手術			肝臓がん		乳がん	年間患者実数(1月~12月)		薬物療法への患者数				
						開胸手術	胸腔鏡下手術	開腹手術	腹腔鏡下手術	ESD+EMR	開腹手術	腹腔鏡下手術	内視鏡手術	開腹手術	ラジオ波焼灼療法	乳癌手術		体外照射	小線源治療	入院患者数	外来患者数			
11	現況	相模原協同病院	(1,657) 2,093	(22.2%) 23.1%	(115) 190	(1) 2	(6) 15	(17) 25	(0) 1	(0) 0	(20) 39	(4) 7	(4) 2	(1) 0	(2) 3	(9) 14	(484) 770	(0) 0	(75) 198	(144) 897	(39) 30	(12) 105	(91) 123	
12	現況	小田原市立病院	(1,655) 2,120	(18.1%) 21.0%	(72) 142	(0) 4	(4) 1	(4) 8	(0) 2	(0) 0	(6) 17	(7) 13	(1) 2	(3) 9	(2) 3	(10) 25	(203) 198	(0) 0	(45) 112	(90) 130	(21) 12	(258) 143	(57) 23	
13	新規	昭和大学横浜市北部病院	4,063	27.6%	841	2	20	6	21	161	37	62	506	12	0	14	491	0	380	204	9	162	1,007	
14	新規	関東労災病院	1,178	10.4%	219	2	11	15	1	11	17	3	1	0	13	15	147	0	176	171	6	80	374	

神奈川県 平成23年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向



1 現在のがん診療連携拠点病院の整備状況

- 本県では、県立がんセンターが「都道府県がん診療連携拠点病院」に、県内11の二次医療圏において、11病院が「地域がん診療連携拠点病院」に指定されている
- 県立がんセンターは、「神奈川県がん診療連携協議会」の運営や地域がん登録の実施機関等として、拠点病院をリード
- 地域がん診療連携拠点病院として、特定機能病院である大学病院を4箇所分散配置し、がん診療に携わる人材の育成や先端的治疗を推進
- 大学病院と併せて、4つの公立病院と2つの民間病院及び独立行政法人が設置する1つの病院が、拠点病院として総合的で住民に身近な医療を展開



これら拠点病院とのネットワークを活用して、高度ながん医療の提供を図っている

2 本県の状況及びがん診療連携拠点病院整備に向けた考え方

(1)がん患者数が全国第2位

- 全国に先駆け、昭和53年からがんが死亡原因の第一位(神奈川県衛生統計年報)
- 悪性新生物総患者数が全国で東京都に次いで多い108,000人(平成20年患者調査における都道府県別悪性新生物患者数)
→行政に対するがんへの対策や医療機関におけるがん医療へのニーズが高く、対応が急務

(2)都市部の二次保健医療圏に人口が集中

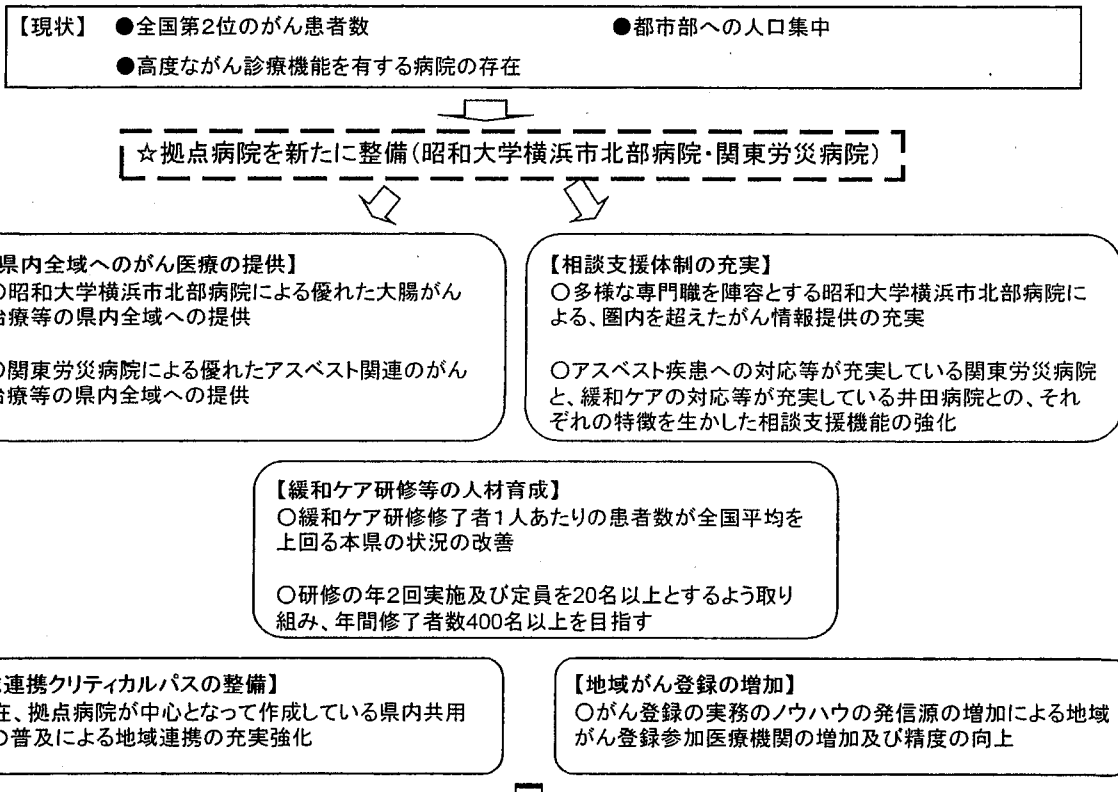
- 県西二次医療圏を除くすべての医療圏で全国平均である37万人を上回る。
- 特に人口が集中する都市部では、人口100万人を超える二次医療圏が3か所存在
→特定の病院への患者の集中によって十分な医療の提供が懸念。

(3)高度ながん診療機能を有する病院

- 高度ながん診療機能を有し、拠点病院として国の指定要件を満たしている病院が存在
→こうした病院の活用が望まれている

本県の状況を踏まえ、同一医療圏内に新たな拠点病院を整備し、既存の拠点病院との役割分担や相互連携により、本県のがん医療の水準を向上させていく

3. 新たに拠点病院を整備することによる効果



本県のがん医療水準の向上と地域連携の強化

27. 大阪府

大阪府 平成22年4月1日現在の指定状況と患者受療状況

資料 1

【大阪府におけるがんをめぐる状況】

1. 全国最悪レベルのがん死亡率
2. がん医療充実に対する府民の期待が高い
3. 二次医療圏の人口規模が全国平均の2倍超

大阪府の二次医療圏数は8つであるが、大阪市二次医療圏については、4つの基本保健医療圏があり、二次医療圏数は実質的に11となる。

○特定機能病院は、所在する二次医療圏の拠点となるとともに、複数医療圏をカバーする。

○人材育成・派遣、高度先進医療の提供等、技術支援・連携によるがん治療を先導する役割を担っている。

【特定機能病院 (オンコロジーセンター)】

- ①大阪大学医学部附属病院 (平成21年4月1日)
- ④大阪医科大学附属病院 (平成21年4月1日)
- ⑤関西医科大学附属枚方病院 (平成22年4月1日)
- ⑦近畿大学医学部附属病院 (平成21年4月1日)
- ⑪大阪府立成人病センター★ (平成22年4月1日)
- ⑫大阪市立大学医学部附属病院 (平成21年4月1日)

- ②市立豊中病院 (平成22年4月1日)
- ⑥東大阪市立総合病院 (平成22年4月1日)
- ⑧大阪南医療センター (平成22年4月1日)
- ⑨大阪労災病院 (平成22年4月1日)
- ⑩市立岸和田市民病院 (平成22年4月1日)
- ⑬大阪市立総合医療センター (平成22年4月1日)
- ⑭大阪赤十字病院 (平成22年4月1日)
- ⑮大阪医療センター (平成22年4月1日)



※()内は平成21年10月末提出の数値、下段は平成22年10月末提出の数値
 ※1については、H21年度は6～7月、H22年度は4～7月の実績 ※2については、ESD+ERRの合計数を記載

資料2-1

都道府県 or 地域	申請 区分	病院名	年間入院患者 数の状況			治療件数(手術件数)の集計 ※1											放射線治療		がんに係る薬物 療法 ※1		緩和ケ ア	相談支 援セン ター	地域連 携	
			年間 新入 院が ん患 者数 (1月 ～12 月)	年間 新入 院患 者数 に占 める がん 患者 の割 合(%)	悪性 腫瘍 手術 総数	肺がん		胃がん手術			大腸がん手術			肝臓がん		乳がん		年間患者実数 (1月～12月)		薬物療法のべ 患者数				
						開 胸手 術	胸 鏡下 手術	開 腹手 術	腹 腔鏡 下手 術	ESD + EMR ※2	開 腹手 術	腹 腔鏡 下手 術	内 視鏡 手術	開 腹手 術	ラジ オ波 焼灼 療法	乳 癌手 術	体 外照 射	小 線源 治療	入 院患 者数	外 来患 者数				緩和ケ アチ ーム に対 する 新 規診 療依 頼数 (6～ 7月 の集 計)
1	現況	大阪大学 医学部 附属病院	(5460) 5581	(31.5) 32.5	(290) 517	(18) 10	(11) 20	(4) 10	(16) 37	(9) 17	(17) 24	(11) 32	(3) 7	(7) 19	(13) 19	(51) 78	(474) 628	(64) 52	(347) 553	(348) 422	(24) 21	(121) 99	(1500) 453	
2	現況	市立豊中 病院	(3976) 3559	(24.8) 23.1	(193) 518	(2) 2	(6) 8	(16) 37	(2) 4	(1) 19	(22) 51	(4) 8	(7) 25	(9) 17	(3) 10	(27) 39	(259) 264	(0) 0	(228) 382	(384) 760	(13) 10	(182) 178	(913) 644	
3	新規	高槻赤十 字病院	2157	29.8	205	0	14	6	3	16	8	14	12	1	0	18	0	0	218	123	17	147	101	
4	現況	大阪医科 大学附 属病院	(4310) 4316	(27.7) 28.4	(290) 508	(5) 6	(10) 18	(9) 18	(16) 32	(20) 36	(4) 2	(63) 88	(9) 35	(9) 9	(2) 11	(19) 49	(734) 718	(32) 44	(299) 600	(602) 1134	(35) 30	(947) 118	(302) 817	
5	現況	関西医科 大学附 属枚方 病院	(4515) 4884	(28.0) 29.0	(392) 758	(0) 2	(17) 30	(19) 33	(3) 15	(19) 38	(6) 32	(15) 8	(5) 55	(7) 15	(1) 12	(25) 52	(688) 818	(0) 0	(256) 397	(858) 514	(7) 17	(222) 362	(508) 407	
6	現況	東大阪市 立総合 病院	(2241) 2215	(19.7) 18.4	(122) 298	(11) 17	(0) 0	(13) 30	(0) 6	(4) 0	(16) 33	(17) 19	(7) 62	(2) 9	(1) 33	(11) 27	(249) 301	(0) 0	(304) 141	(805) 332	(50) 33	(215) 1079	(77) 107	
7	現況	近畿大学 医学部 附属病 院	(6529) 6086	(33.9) 31.3	(475) 939	(10) 10	(19) 33	(5) 10	(10) 13	(19) 31	(22) 37	(10) 16	(5) 1	(5) 7	(52) 79	(52) 75	(841) 777	(41) 12	(51) 565	(740) 1931	(13) 22	(255) 334	(3684) 471	
8	現況	大阪南医 療セン ター	(2618) 2788	(26.3) 29.1	(123) 202	(0) 0	(0) 0	(11) 21	(2) 2	(3) 12	(9) 12	(7) 27	(2) 11	(5) 5	(16) 19	(6) 13	(149) 104	(0) 0	(112) 345	(160) 151	(26) 23	(709) 523	(53) 56	

※()内は平成21年10月末提出の数値、下段は平成22年10月末提出の数値
 ※1については、H21年度は6～7月、H22年度は4～7月の実績 ※2については、ESD+ERRの合計数を記載

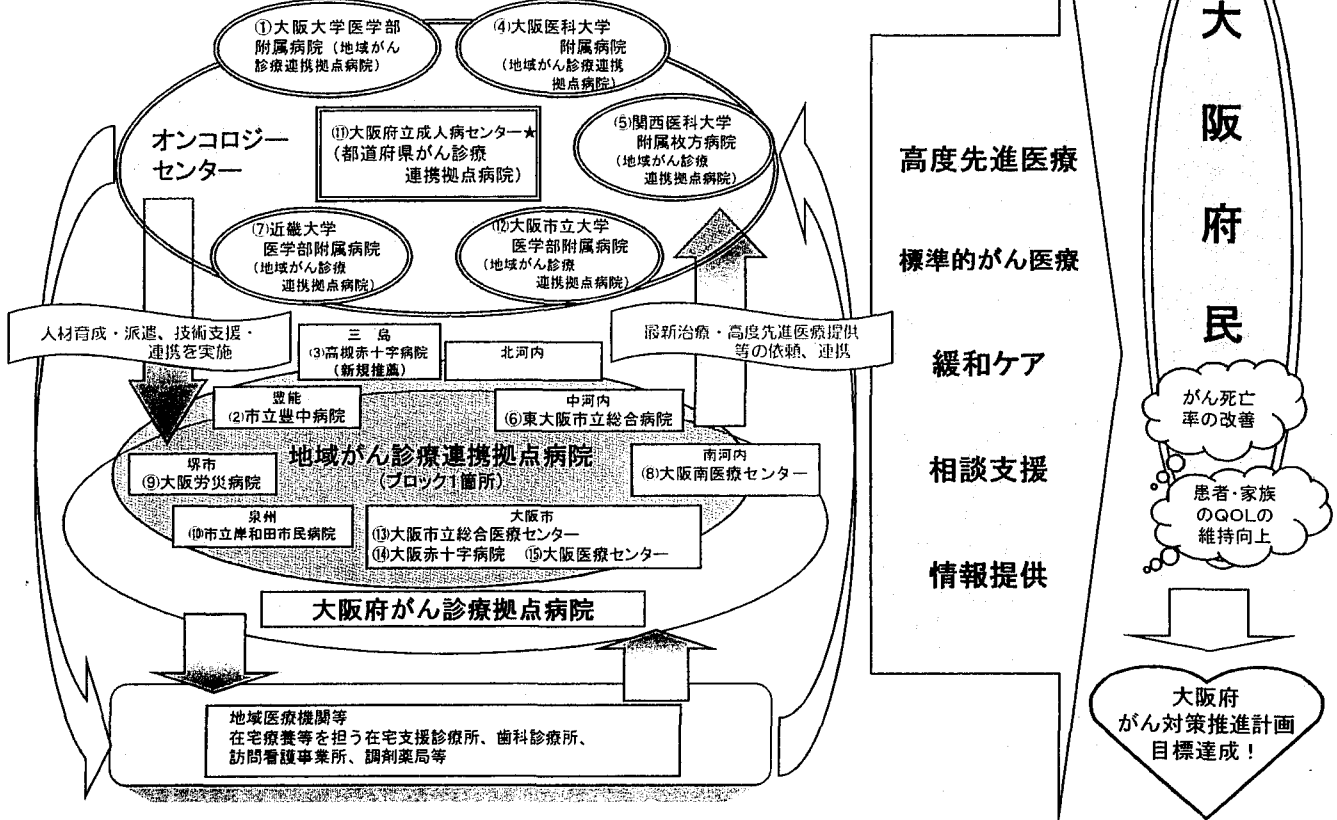
資料2-2

都道府県 or 地域	申請 区分	病院名	年間入院患者 数の状況			治療件数(手術件数)の集計 ※1											放射線治療		がんに係る薬物 療法 ※1		緩和ケ ア	相談支 援セン ター	地域連 携	
			年間 新入 院が ん患 者数 (1月 ～12 月)	年間 新入 院患 者数 に占 める がん 患者 の割 合(%)	悪性 腫瘍 手術 総数	肺がん		胃がん手術			大腸がん手術			肝臓がん		乳がん		年間患者実数 (1月～12月)		薬物療法のべ 患者数				
						開 胸手 術	胸 鏡下 手術	開 腹手 術	腹 腔鏡 下手 術	ESD + EMR ※2	開 腹手 術	腹 腔鏡 下手 術	内 視鏡 手術	開 腹手 術	ラジ オ波 焼灼 療法	乳 癌手 術	体 外照 射	小 線源 治療	入 院患 者数	外 来患 者数				緩和ケ アチ ーム に対 する 新 規診 療依 頼数 (6～ 7月 の集 計)
9	現況	大阪労災 病院	(4577) 4086	(27.1) 23.4	(202) 401	(0) 0	(0) 0	(10) 18	(11) 18	(7) 17	(21) 38	(12) 28	(0) 3	(6) 7	(13) 22	(25) 64	(345) 358	(50) 39	(68) 100	(291) 280	(28) 22	(337) 81	(405) 462	
10	現況	市立岸和 田市民 病院	(2102) 2177	(24.7) 26.2	(112) 287	(6) 3	(1) 16	(5) 10	(3) 2	(3) 11	(13) 18	(3) 19	(2) 10	(4) 10	(22) 18	(10) 24	(288) 262	(0) 0	(91) 109	(239) 274	(5) 11	(637) 330	(255) 333	
11	★現況	大阪府立 成人病 センタ ー	(6868) 7215	(78.2) 78.7	(491) 1967	(28) 28	(28) 99	(20) 36	(4) 10	(48) 109	(26) 49	(6) 15	(9) 84	(11) 21	(44) 72	(67) 109	(1102) 1187	(32) 28	(421) 449	(568) 581	(10) 16	(637) 648	(543) 583	
12	現況	大阪市立 大学医 学部附 属病 院	(3696) 4060	(25.5) 26.2	(348) 776	(1) 6	(20) 15	(25) 24	(5) 24	(17) 39	(12) 24	(8) 39	(6) 80	(14) 17	(17) 54	(18) 39	(618) 713	(36) 39	(197) 355	(293) 429	(13) 25	(13) 71	(74) 735	
13	現況	大阪市立 総合医 療セン ター	(6804) 4377	(35.3) 22.4	(289) 567	(10) 62	(24) 53	(14) 15	(41) 53	(20) 38	(12) 21	(27) 39	(10) 5	(28) 12	(28) 30	(22) 54	(833) 816	(16) 19	(263) 355	(526) 708	(44) 42	(235) 342	(372) 869	
14	現況	大阪赤十 字病 院	(5878) 3340	(30.1) 22.7	(330) 467	(10) 10	(10) 13	(16) 47	(9) 6	(21) 48	(26) 41	(25) 34	(19) 23	(14) 23	(66) 128	(20) 39	(487) 411	(0) 0	(140) 599	(150) 549	(29) 30	(153) 238	(137) 141	
15	現況	大阪医療 センタ ー	(4113) 4026	(31.4) 31.0	(232) 508	(11) 6	(1) 56	(24) 42	(5) 0	(9) 9	(13) 25	(13) 21	(11) 9	(7) 7	(18) 20	(50) 72	(316) 472	(80) 78	(724) 1439	(65) 124	(30) 32	(44) 66	(754) 294	

大阪府におけるがん診療連携体制
～大阪オンコロジーセンター支援構想(案)～

資料4-2

特定機能病院が有するオンコロジーセンター機能を活用することにより、都道府県がん診療連携拠点病院である大阪府立成人病センターとの連携協力の下、大阪府域全体にわたりがん患者に対する医療提供の充実が期待できる。



前回の検討会における条件付き 指定について

15. 新潟県、22. 静岡県、24. 三重県